

令和8年度

# 授 業 概 要

学校法人 穴吹学園

専門学校 穴吹リハビリテーションカレッジ

作業療法学科

校訓

日  
々  
是  
是  
前  
進

穴吹夏次

令和8年度

# カリキュラム

作業療法学科カリキュラム(令和7年度・8年度入学生対象)

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年		4年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野 14単位	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解 14単位	心理学	2	15	30							
		情報科学	1	30	30							
		社会学	2	15	30							
		コミュニケーション論演習	1	30	30							
		外国語	2	15					30			
		健康学	1	30		30						
		作業科学	2	15		30						
		キャリア形成学	2	15							30	
		統計学	2	15						30		
基礎分野合計			15		120	60	0	0	60	30	0	0
専門基礎分野 30単位	人体の構造と機能及び心身の発達 12単位	解剖運動学概論	2	15	30							
		上肢解剖運動学	2	15	30							
		下肢体幹解剖運動学	2	15		30						
		解剖運動学演習	1	30		30						
		内臓学	1	30	30							
		解剖学実習	1	30				30				
		生理学Ⅰ	1	30	30							
		生理学Ⅱ	1	30		30						
		生理学演習	1	30			30					
		脳機能解剖学	1	30		30						
		人間発達学	2	15	30							
		小計	15		150	120	30	30	0	0	0	0
30単位	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 14単位	病理学	2	15		30						
		臨床心理学	1	30		30						
		一般臨床医学	2	15		30						
		リハビリテーション栄養学・薬理学	2	15			30					
		内科学	2	15			30					
		整形外科学Ⅰ	1	30			30					
		整形外科学Ⅱ	1	30				30				
		神経病学Ⅰ	1	30			30					
		神経病学Ⅱ	1	30				30				
		精神医学	1	30		30						
		老年学	1	30				30				
小計	15		0	120	120	90	0	0	0	0		
4単位	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学概論	2	15	30							
		保健医療福祉連携論	2	15						30		
		小計	4		30	0	0	0	0	30	0	0
専門基礎分野合計			34		180	240	150	120	0	30	0	0

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

作業療法学科カリキュラム(令和7年度・8年度入学生対象)

分野	教育内容	単位数	単位時間	1年		2年		3年		4年		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門分野	基礎作業療法学 5単位	作業療法概論	2	15	30							
		作業療法理論	2	15					30			
		基礎作業学	1	30	30							
		作業治療学実習Ⅰ	1	30		30						
		作業治療学実習Ⅱ	1	30			30					
		作業治療学実習Ⅲ	1	30				30				
	小計	8		60	30	30	0	30	0	0	0	
	作業療法管理学 2単位	作業療法管理学	2	15						30		
		小計	2		0	0	0	0	0	30	0	0
	作業療法評価学 5単位	作業療法評価学概論	1	30		30						
		運動器作業療法評価学	1	30			30					
		神経筋作業療法評価学	1	30			30					
		作業療法評価応用学	1	30				30				
		画像評価学	1	30					30			
		小計	5		0	30	60	30	30	0	0	0
	作業療法治療学 19単位	中枢神経疾患作業療法学Ⅰ	1	30				30				
		中枢神経疾患作業療法学Ⅱ	1	30					30			
		運動器疾患作業療法学Ⅰ	1	30				30				
		運動器疾患作業療法学Ⅱ	1	30					30			
		内部障害作業療法学	1	30					30			
		発達障害作業療法学Ⅰ	1	30					30			
		発達障害作業療法学Ⅱ	1	30						30		
		精神障害作業療法学概論	1	30			30					
		精神障害作業療法学Ⅰ	1	30				30				
		精神障害作業療法学Ⅱ	1	30					30			
		高齢期作業療法学	1	30					30			
		生活支援学	2	15		30						
		生活支援学演習	1	30			30					
		生活行為向上マネジメント学	2	15					30			
		生活行為向上マネジメント学演習	1	30						30		
		義肢学	1	30				30				
		装具学実習	1	30						30		
		ペーパーペイシエント	1	30						30		
作業療法研究論Ⅰ		2	15						30			
作業療法研究論Ⅱ		2	15								30	
動作分析学	1	30					30					
パラスポーツ学	1	30								30		
スキルアップ専攻学Ⅰ	1	30						30				
スキルアップ専攻学Ⅱ	1	30							30			
作業療法治療応用学	1	30								30		
小計	29		0	30	90	180	210	150	0	90		
地域作業療法学 4単位	地域共生学Ⅰ	1	30	30								
	地域共生学Ⅱ	1	30			30						
	住環境調整学	1	30					30				
	地域作業療法学	1	30					30				
	福祉用具学	1	30					30				
	就労支援学	1	30						30			
小計	6		30	0	30	0	90	30	0	0		
臨床実習 22単位	見学実習	1	45		45							
	評価実習Ⅰ	4	45				180					
	評価実習Ⅱ	4	45						180			
	総合臨床実習Ⅰ	8	45							360		
	総合臨床実習Ⅱ	8	45							360		
	小計	25		0	45	0	180	0	180	720	0	
専門分野合計		75		90	135	210	390	360	360	720	90	
総合計		124	3405	390	435	360	540	420	450	720	90	

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

作業療法学科カリキュラム(令和6年度入学生対象)

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野 14単位	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解  14単位	心 理 学	2	15	30					
		情 報 科 学	1	30	30					
		論 理 学	2	15	30					
		社 会 学	2	15	30					
		人 間 工 学	2	15	30					
		コミュニケーション論演習Ⅰ	1	30	30					
		コミュニケーション論演習Ⅱ	1	30			30			
		健 康 科 学	1	30	30					
		英 語	2	15		30				
	基礎分野合計			14		210	30	30	0	0
専門基礎分野 30単位	人体の構造と機能 及び心身の発達  12単位	上肢解剖運動学Ⅰ	1	30	30					
		上肢解剖運動学Ⅱ	1	30	30					
		下肢体幹解剖運動学	1	30	30					
		解剖運動学演習	1	30		30				
		内 臓 学	1	30	30					
		解剖学実習	1	30		30				
		運動生理学Ⅰ	1	30	30					
		運動生理学Ⅱ	1	30	30					
		運動生理学Ⅲ	1	30		30				
		運動生理学演習	1	30		30				
		人間発達学	2	15	30					
		小 計	12		210	120	0	0	0	0
	30単位	疾病と障害の成り 立ち及び回復過程 の促進  14単位	病 理 学	1	30			30		
臨床心理学			1	30		30				
一般臨床医学Ⅰ			2	15		30				
一般臨床医学Ⅱ			2	15		30				
内 科 学			1	30		30				
整形外科学Ⅰ			1	30		30				
整形外科学Ⅱ			1	30			30			
神経病学Ⅰ			1	30		30				
神経病学Ⅱ			1	30			30			
精神医学			1	30		30				
健康管理学		1	30		30					
老 年 学	1	30			30					
小 計	14		0	240	120	0	0	0		
4単位	保健医療福祉とリ ハビリテーションの 理念	リハビリテーション医学概論	1	30	30					
		保健医療福祉連携論	1	30			30			
		地域・国際コミュニティ論	2	15			30			
	小 計	4		30	0	60	0	0	0	
専門基礎分野合計			30		240	360	180	0	0	0

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

作業療法学科カリキュラム(令和6年度入学生対象)

分野	教育内容	単位 数	単位 時間	1年		2年		3年		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門分野	基礎作業療法学 5単位	作業療法概論Ⅰ	1	30	30					
		作業療法理論	1	30				30		
		基礎作業学	1	30		30				
		基礎作業学実習Ⅰ	1	30			30			
		基礎作業学実習Ⅱ	1	30				30		
		小計	5		30	30	30	60	0	0
	作業療法管理学 2単位	作業療法管理学Ⅰ	1	30			30			
		作業療法管理学Ⅱ	1	30				30		
		小計	2		0	0	30	30	0	0
	作業療法評価学 5単位	作業療法評価学概論	1	30		30				
		運動器作業療法評価学	1	30			30			
		神経筋作業療法評価学	1	30			30			
		作業療法評価学演習Ⅰ	1	30				30		
		作業療法評価学演習Ⅱ	1	30				30		
		小計	5		0	30	60	60	0	0
	作業療法治療学 19単位	中枢神経疾患作業療法学Ⅰ	1	30			30			
		中枢神経疾患作業療法学Ⅱ	1	30				30		
		運動器疾患作業療法学Ⅰ	1	30			30			
		運動器疾患作業療法学Ⅱ	1	30				30		
		内部疾患作業療法学	1	30			30			
発達障害作業療法学Ⅰ		1	30			30				
発達障害作業療法学Ⅱ		1	30				30			
精神障害作業療法学概論		1	30		30					
精神障害作業療法学Ⅰ		1	30			30				
精神障害作業療法学Ⅱ		1	30				30			
高齢期作業療法学		1	30				30			
生活行為学Ⅰ		1	30		30					
生活行為学Ⅱ		1	30			30				
生活行為向上マネジメント学		1	30				30			
義肢学		1	30			30				
装具学実習		2	30				60			
作業療法総合論	2	30						60		
小計	19		0	60	210	240	0	60		
地域作業療法学 4単位	住環境整備論	1	30				30			
	地域作業療法学	1	30				30			
	福祉用具学	1	30				30			
	就労支援技術論	1	30				30			
	小計	4		0	0	0	120	0	0	
臨床実習 25単位	見学実習Ⅰ	1	45	45						
	見学実習Ⅱ	1	45		45					
	評価実習	3	45				135			
	総合臨床実習Ⅰ	10	45					450		
	総合臨床実習Ⅱ	10	45						450	
	小計	25		45	45	0	135	450	450	
専門分野合計		60		75	165	330	645	450	510	
総合計		104	3225	525	555	540	645	450	510	

※講義、演習は15～30時間で1単位。実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。臨床実習:45時間1単位

**科学的思考の基盤**

**人間と生活**

**社会の理解**

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学	作業療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		植野 英一
授業の概要			
心理学の各領域について概説し、心理学の基礎的知識を習得する。 生活場面における環境や行動において心理学が関係していることに関心を持てるようにする。			
授業終了時の到達目標			
心理現象のメカニズムについて理解し、身近なものや人の行動について照らし合わせて理解できる。また、心に関する様々な問題に対して、多角的な視点からの思考を持つ。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修			
以下に記されているテーマならびに講義内容について、テキストを読んで、事前学習に努める。また、授業で説明した内容の振り返りを行う。			
回	テーマ	内容	
1	ガイダンス 心理学とは	心理学を学ぶことの意味 心理学の各領域の紹介	
2	知覚	知覚すること、図と地、錯視、知覚の主観性 物理的環境と心理的環境	
3	学習	学習の重要性、新たな行動様式の学習メカニズム やる気と無気力	
4	記憶	記憶のメカニズム、記憶の変容 想起時につくられる記憶、自伝的記憶、偽の記憶	
5	発達	発達とは、発達段階と発達課題 発達移行期、文化と発達期待	
6	学習、記憶、発達の復習	国家試験過去問題を通じて、学習、記憶、発達の復習を行う	
7	青年1	青年期とは、友情と恋愛	
8	青年2	アイデンティティの探求、青年期の時間的展望	
9	性格1	性格を捉える、性格の形成と変容に関する理論 性格の形成要因	
10	性格2	性格検査（質問紙法：エゴグラム 投影法：バウムテストまたはロールシャッハ・テスト）	
11	自己	自己の二重性、客体としての自己概念 主体としての自己に迫る、物語的文脈としての自己	
12	家族	家族というシステム、家族の発達段階 家族関係の病理	
13	こころの病気と健康 認知行動療法	こころの健康性、精神障害、思春期・青年期の心の病理 認知行動療法の説明	
14	社会	対人認知、コミュニケーションと対人行動	
15	まとめ	講義7回目～14回目までの内容を中心に、国家試験過去問題 を通じて復習する	
教科書・教材		評価基準	評価率
はじめてふれる心理学（サイエンス社）		期末試験	100%
			授業内に1度は発言する機会を設ける

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
情報科学	作業療法学科/1年	2026/前期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必修		廣永 大祐	
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのビジネスパーソンが身に付けるべきリテラシーを学ぶ</li> <li>データサイエンティストの思考を学ぶ ・ ChatGPTの仕組み・使い方を理解し、留意点を学ぶ</li> <li>AIの全体像を理解する、生成AIの全体像を理解する ・ AIに入力するプロンプトの作成を理解する</li> <li>DXを理解し、日常をDXに置き換えて変化させることができる</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
業務上のレポート作成、データ集計資料作成、Web上での情報検索、プレゼンテーション資料作成など情報活用技術全般の基礎を習得する。さらにオンライン通信や文献検索の方法を身につける。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験			
時間外に必要な学修				
予習：テキストを読み、理解しにくい内容を調べる 復習：授業で配布した資料で特に講義内で重点的に覚える内容を見直す				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	・ 授業の進め方・DX・AIとは（使える人材となるために）		
2	DXリテラシー_I	第1章 活用事例 (How) からDXの背景 (Why) を知る 第2章 デジタル技術 (What) を知る		
3	DXリテラシー_II	第3章 デジタルツールの活用例 (How) を知る 第4章 デジタルツール利用での留意点 (How) を知る		
4	紙とえんぴつで始めるデータサイエンス入門_I	第1章 デジタル時代に必要なデータリテラシー 第2章 データを読む力を身につける		
5	紙とえんぴつで始めるデータサイエンス入門_II	第3章 データから予測する力を身につける① 第4章 データから予測する力を身につける②		
6	LLMリテラシー_I	1. LLM/ChatGPTとは -ChatGPTで何ができるの？ -生成AI (Generative AI) とは？		
7	LLMリテラシー_II	2. ChatGPTの利用準備 3. ChatGPTを使ってみよう 4. LLMの活用事例		
8	イメージで理解するAI/生成AI_I	AIの基礎 AIを理解するための全体像 AIモデルの作り方		
9	イメージで理解するAI/生成AI_II	識別と生成		
10	ユースケースで理解する生成AI_I	1. イントロダクション 2. 生成AI概要の復習		
11	ユースケースで理解する生成AI_II	3. 実践：業務で活用できるユースケース 4. まとめ		
12	DXマインドスタンス_I	1. DX時代のマインド・スタンスとは		
13	DXマインドスタンス_II	2. DXのマインド・スタンスを知る		
14	DXマインドスタンス_III	2. DXのマインド・スタンスを知る		
15	DXマインドスタンス_IV	3. DXマインド・スタンスを自分事化する - 【演習】 自らの行動目標をまとめる		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
NEC eトレーニング		課題・レポート	100.0%	

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
社会学	作業療法学科/1年	2026/前期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
2単位 (30時間)	必須		上杉 敬治	
授業の概要				
<p>「社会」は個々人の集合体であるとともに、それ自体として政治、経済、法や慣習、教育、家族、宗教など様々なシステムをもち、相互依存しながら存在している。本授業はそれらの仕組みを学び理解することで、その中でなぜ障害や生きづらさが発生するのか、また作業療法士としてどのように社会貢献できるかを学ぶことを目的とする。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>①社会福祉における基本的な価値観、倫理、人権意識、法制度などを理解する。  ②現代社会における高齢者や障害者などを取り巻く社会状況、生活環境について理解する。  ③様々な社会課題を理解し、作業療法士として社会に貢献できる協調性やコミュニケーション能力の基礎を身につける。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
無				
時間外に必要な学修				
各授業の参考資料を一読して、理解を深める。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	授業全体の概要、社会と社会学の定義		
2	セラピスト	社会的な役割とその魅力について考える		
3	社会と人間関係	職業人としての基本的な心構え、マナーについて理解する		
4	さまざまな人権課題①	女性・子どもの人権及び現状と課題について考える		
5	さまざまな人権課題②	高齢者・障害者の人権及び現状と課題について考える		
6	超高齢化社会①	平均寿命と健康寿命、関連する疾病について理解する		
7	超高齢化社会②	認知症と地域の関わりを考える		
8	障害者と社会①	障害の定義、知的障害と発達障害について理解する		
9	障害者と社会②	障害の特性からその支援方法について考える		
10	地域と社会①	市制制度の歴史や地域の特性、魅力を理解する		
11	地域と社会②	地域資源の活用方法や住民との関係性について考える		
12	文化と社会①	方言が持つ親和性が「作業」に与える影響を考える		
13	文化と社会②	四国遍路巡礼の歴史と現状を理解する。		
14	文化と社会③	歴史的な背景が地域社会に与える影響を考える		
15	総括・試験	全体のまとめと学習到達度の確認		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書は使用しない。 各授業でテーマとする教材を使用する。		定期考査 授業での課題・レポート	60% 40%	

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション論演習	作業療法学科/1年	2026/前期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位(30時間)	必修		大川 麻美
授業の概要			
臨床で働くまでに必ず身に付けるべきコミュニケーションスキルや社会人としてのマナーなどを修得する。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な臨床技能としてのコミュニケーション力を身に付けた医療人になる</li> <li>・問題解決に向けた行動ができる医療人になる</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士の経験を活かして学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修			
予習: 次回の講義テーマに関連する日常の場面を想定し、マナーやモラルを常に心がけておく 復習: 学んだ技法を日常生活で実践する			
回	テーマ	内容	
1	オリエンテーション	コミュニケーションとは パーソナルスペースとタッチング	
2	ケア・コミュニケーションについて	医療におけるコミュニケーション	
3	自己分析	自己概念、自己肯定感 自分のコミュニケーションを知る	
4	みる	観察から読みとれる非言語情報、相手に与える印象	
5	きく	傾聴、聴き手のコツ 共感と回想	
6	伝える	アサーティブネス、伝わるコツ	
7	被援助者との関係を築く	好感・信頼感を高めるコミュニケーション 敬意を伝えるコミュニケーション	
8	被援助者との関係を築く	丁寧語・尊敬語・謙譲語 ラポール形成、対象者の意欲を引き出す声かけ	
9	地域の方とのコミュニケーション	地域の方との交流 企画・運営	
10	地域の方とのコミュニケーション	地域の方との交流 企画・運営	
11	多様性を認めるコミュニケーション	障害者野球におけるルール工夫と関わり	
12	留学生から話を聞く 1	留学生の文化を知る ※穴吹グループの留学生と面談のための準備	
13	留学生から話を聞く 2	留学生の文化を知る ※穴吹グループの留学生と面談のための準備	
14	留学生から話を聞く 3	文化交流・発表	
15	まとめ 先輩との交流	社会人・医療人として必要なこととは何か	
教科書・教材		評価基準	評価率
・PTOTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版(医学書院) ・ケア・コミュニケーション(ウイネット)		課題・レポート	100%
			その他 到達目標を考えた行動をとる

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
健康学	作業療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		植野 英一
授業の概要			
健康の維持・増進のために知っておくべき知識をさまざまな視点で学ぶ。健康体操の指導ができるようにする。			
授業終了時の到達目標			
健康とは何か、健康を阻害するものについて説明することができる。 健康体操を他者に指導することができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 病院や高齢者施設での経験を活かして学生に分かりやすく指導する。		
時間外に必要な学修			
以下に記す講義内容を事前に調べておく。また、授業中に学んだ専門用語ついて、自身で関係書籍を活用して理解を深める。			
回	テーマ	内容	
1	授業概要の説明 健康とは	授業概要の説明 健康とは	
2	身体構造と身体機能 健康診断	循環器系、呼吸器系、消化器系ほか 健康診断の意義と各検査・測定項目	
3	心の健康	精神的健康とは、心の不健康（うつ病、摂食障害、統合失調症など）	
4	遺伝と健康 適応と健康	遺伝の仕組み、遺伝性疾患、肥満・高血圧と遺伝との関係 自律神経系の作用、寒冷や暑熱および高地での適応	
5	環境と健康	温熱や騒音、振動などの環境と健康 COVID-19などの感染症と健康	
6	栄養と健康	五大栄養素の機能 栄養・健康に関する社会的諸問題	
7	運動と健康	運動の効果、トレーニング法と運動処方の実際 運動による障害	
8	生活習慣と健康	生活習慣病、食生活と健康、身体活動と健康、喫煙と健康 アルコールと健康、睡眠と健康	
9	社会と健康 1	健康に生きる権利、公衆衛生対策と健康 医療制度	
10	社会と健康 2	集団と健康、学校と健康、職場と健康	
11	社会と健康 3	経済と健康、法律と健康	
12	科学技術と健康 1	化学物質と健康 情報技術（IT）と健康	
13	科学技術と健康 2	交通機関と健康、自動車事故、自動車運転と健康障害	
14	科学技術と健康 3	住宅と健康	
15	健康体操の紹介と実践 まとめ	健康体操の紹介と実践 まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率
テキスト健康科学（南江堂）		期末試験	100%
			分からないことは積極的に質問すること

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
作業科学	作業療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		谷渕 加奈子
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の特性を学び、作業について理解する</li> <li>・人—作業—環境の関係性について学ぶ</li> </ul>			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の意味や概念について理解し、日常生活場面や作業療法場面に応用することができる。</li> <li>・現代社会における作業的公正・不公正について理解し、考察を深めることができる。</li> <li>・作業療法に求められる作業の力について理解し、実践の礎とすることができる。</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 病院や施設の作業療法実践経験を授業に活かす		
時間外に必要な学修			
予習：該当範囲の教科書を読んでおく。 復習：授業で学んだ範囲を教科書・資料で振り返り、課題実施。			
回	テーマ	内容	
1	はじめに	作業の力、作業科学について、作業科学の学問的性質	
2	作業の意味 1	1) 引き起こされる感情 2) 目的か手段か 3) 世界とのつながり 4) 自分らしさ	
3	作業の意味 2	5) 生活の構造化 6) 健康との関連性 7) 社会的意味 8) 作業の類型化	
4	作業の普遍的性質	6つの特徴	
5	作業的公正	作業的公正・作業的不公正 CAOD	
6	作業的不公正	健康の社会的決定要因	
7	作業的写真課題 1	自分の作業に関して	
8	作業的写真課題 2	まとめ作業	
9	作業的写真課題 3	発表・振り返り	
10	ストーリーテリングとストーリーメイキング 1	ペアワーク	
11	ストーリーテリングとストーリーメイキング 2	発表・振り返り	
12	予防的作業療法	ワーク・発表	
13	作業的公正の可能化	作業中心の実践（各種理論の紹介）	
14	健康と幸福 1	健康と幸福、作業療法の定義、ウェルビーイング	
15	健康と幸福 2	Doing, Being, Becoming, Belonging、まとめ課題	
教科書・教材		評価基準	評価率
作業って何だろう作業科学入門第2版（医歯薬出版株式会社）		課題・レポート	100%
			課題の提出期限を守らなかった場合は、評価対象外とする。

# 人体の構造と機能及び 心身の発達

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
解剖運動学概論	作業療法学科/1年	2026/前期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
2単位 (30時間)	必修		山下 良二	
授業の概要				
人体の正常な構造を理解するために解剖学的な知識を学んでいく。人体の構造や器官の名称を正確に学び、機能解剖の観点から関節運動のバイオメカニクスの理解を深めていく。特に骨や筋、神経の総論と運動学に必要な知識を学んでいく。				
授業終了時の到達目標				
到達目標としては正常な人体の構造と概論について学習し、その働きを理解する。また作業療法士として必要な上肢の骨や筋肉の名称を理解することで臨床場面で必要となる知識を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、解剖学と運動学を臨臨床的観点から結びつける。		
時間外に必要な学修				
予習; 次回の範囲のテキストと事前に配布した資料を読んでおく。 復習; 小テストを行うため前回の復習をしておく。				
回	テーマ	内容		
1	解剖学、運動学とは 人体の概要	解剖学、運動学の定義などを学習して、どのような内容を学ぶか理解する。		
2	細胞と発生	細胞の構造と機能について学習し、人体の発生について理解を深める。		
3	骨格系の総論	骨の形態や構造、機能について学習する。		
4	骨の形状や名称について	人体の骨の名称や形状についてスケッチなどを行い学習する。		
5	筋の総論	筋組織の構造や機能について学習する。		
6	関節の機能と分類について	関節の基本構造と機能について理解する。関節の種類を軸とその働きから分類し、特徴について理解する。		
7	関節の運動方向①	関節の運動方向について理解し、実技を行いながら方向を確認する。		
8	関節の運動方向②	関節の運動方向について理解し、実技を行いながら方向を確認する。		
9	神経の総論	神経系の総論について学習し、上肢の神経や自律神経についても理解する。		
10	血管の総論	血管系の総論について学習し、上肢の血管やリンパ系について理解する。		
11	中枢神経系について①	大脳、小脳、脊髄などの機能的解剖について理解する。		
12	中枢神経系について②	脳神経や大脳皮質の機能局在、伝導路について理解する。		
13	感覚器について	皮膚の構造や視覚器、平衡感覚器、嗅覚期など感覚器の器官の名称と働きについて理解する。		
14	頭部 頸部の解剖と運動	頭部、頸部の解剖学と運動学について理解する。		
15	解剖運動学概論のまとめ	解剖運動学概論のまとめを行う。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (医学書院) ほか		期末試験	100%	予習、復習をして授業を受ける

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
上肢解剖運動学	作業療法学科/1年	2026/前期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
2単位 (30時間)	必修		山下 良二	
授業の概要				
人体の正常な構造を理解するために解剖学的な知識を学んでいく。人体の構造や器官の名称を正確に学び、機能解剖の観点から関節運動のバイオメカニクスの理解を深めていく。特に上肢の関節や運動学について講義をしていく。				
授業終了時の到達目標				
到達目標としては上肢の関節の構造や筋肉の起始停止などを理解する。また作業療法士として必要な上肢の関節の働きや、筋の作用を理解することで臨床場面で必要となる知識を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、解剖学と運動学を臨床的観点から結びつける。		
時間外に必要な学修				
予習; 次回の範囲のテキストと事前に配布した資料を読んでおく。 復習; 小テストを行うため前回の復習をしておく。				
回	テーマ	内容		
1	肩関節① 構造と胸鎖関節、肩鎖関節について	肩を構成する骨と関節と理解する。胸鎖関節、肩鎖関節の解剖と運動学について理解する。		
2	肩関節② 肩甲胸郭関節について	肩甲胸郭関節の解剖と肩甲骨の動きについて理解する。		
3	肩関節③ 肩甲上腕関節について	肩甲上腕関節の解剖と運動学について理解する。		
4	肩関節④ 肩の運動について (屈曲・伸展)	肩の動きである屈曲、伸展に作用する筋肉と運動学について理解する。		
5	肩関節⑤ 肩の運動について (外転など)	肩の外転、内転、外旋、内旋などに作用する筋肉と運動学について理解する。		
6	肩関節⑥ 肩の安定化機能について	肩関節の安定化について理解する。		
7	肩関節⑦ 上肢の神経や血管と肩の障害	上肢の血管や腕神経叢などの神経について理解する。肩に関わる疾患について理解する。		
8	肘関節① 肘関節の解剖	肘関節を構成する骨と関節の分類について理解する。		
9	肘関節② 肘の動きに作用する筋について	肘関節の動きに作用する筋肉について理解する。		
10	肘関節③ 肘関節の運動学	肘関節に関わる運動学的な機能について理解する。		
11	手関節① 手関節の解剖	手関節に関わる解剖について理解する。		
12	手関節② 手関節の運動学	手関節に関わる運動学的な機能について理解する。		
13	手指 手指の解剖と運動学	手指に関わる解剖や運動学的な機能について理解する。		
14	上肢の筋の復習	上肢の筋肉の起始、停止、神経支配、作用について復習する。		
15	上肢解剖運動学Ⅱのまとめ	上肢解剖運動学Ⅱのまとめを行う。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (医学書院) ほか		期末試験	100%	予習、復習をして授業を受けていく

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
下肢体幹解剖運動学	作業療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		山下 良二
授業の概要			
人体の正常な構造を理解するために解剖学的な知識を学んでいく。人体の構造や器官の名称を正確に学び、機能解剖の観点から関節運動のバイオメカニクスの理解を深めていく。特に下肢の骨や筋肉を学び、関節の運動学を理解する。また、姿勢や歩行などについても解剖学的視点と運動学視点を踏まえて講義を行っていく。			
授業終了時の到達目標			
到達目標としては下肢の骨や筋肉の作用、関節の分類や運動方向を理解する。特に作業療法士として必要な下肢の解剖と運動学を学び、姿勢や歩行について理解することで臨床場面で必要となる知識を身につける。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、解剖学と運動学を臨床的観点から結びつける。		
時間外に必要な学修			
予習: 次回の範囲のテキストと事前に配布した資料を読んでおく。 復習: 小テストを行うため前回の復習をしておく。			
回	テーマ	内 容	
1	脊柱、胸郭、骨盤の解剖と運動学	脊柱、胸郭、骨盤の構造と運動について理解する。	
2	股関節① 股関節の解剖	股関節を構成する骨について理解する。	
3	股関節② 股関節の動きに作用する筋肉	股関節の運動方向と作用する筋肉について理解する。	
4	股関節③ 股関節の運動学	股関節の運動学について理解する。	
5	股関節④ 股関節の疾患と下肢の神経、血管	股関節に関わる疾患と下肢の神経や血管の走行を理解する。	
6	膝関節① 膝関節の解剖	膝関節の解剖について理解する。	
7	膝関節② 膝関節の動きと作用する筋肉	膝関節の運動方向と作用する筋肉について理解する。	
8	膝関節③ 膝関節の運動学	膝関節の運動学について理解する。	
9	足関節① 足関節の解剖	足関節の解剖について理解する。	
10	足関節② 足関節の運動学	足関節の運動学について理解する。	
11	姿勢と重心①	人体と重心の関りをバイオメカニクスの観点から理解する。	
12	姿勢と重心②	重心と体の動きから寝返り、起居動作、立ち上がりなどの基本動作について理解する。	
13	歩行①	歩行の基礎について運動学的に理解する。	
14	歩行②と下肢解剖運動学のまとめ	歩行の様態や異常歩行について理解する。	
15	下肢の筋の復習と下肢体幹解剖運動学のまとめ	下肢の筋の起始、停止、支配神経、作用について復習する。下肢体幹解剖運動学のまとめを行う。	
教科書・教材		評価基準	評価率
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (医学書院) ほか		期末試験	100%
			その他 予習、復習をして授業を受けていく

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
解剖運動学演習	作業療法学科/1年	2026/後期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位(30時間)	必修		廣永 大祐	
授業の概要				
解剖学での知識に触診という技術をあわせ体表面上から身体を観察する力を養う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・触診の基本がわかる。</li> <li>・四肢・体幹を構成する骨・靭帯・筋・血管を触診に特定でき、説明できるようにする。</li> <li>・各部位の異常に関連した障害、疾患名、診察法を挙げる事が出来る。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の勤務経験 これまでの作業療法の経験を用いて、実際の触診を学生に指導する。		
時間外に必要な学修				
予習: テキストを読み、理解しにくい内容を調べる				
復習: 授業で配布した資料で特に講義内で重点的に覚える内容を見直す				
回	テーマ	内容		
1	体表面解剖学総論 触診の基本	触診の基礎知識となる人体の動きを医学的表現で理解する。触診を行う際の指の当て方、触診時の注意点		
2	骨・関節の触診 肩甲骨・鎖骨・上腕骨	肩甲骨・鎖骨・上腕骨の部分名称、触察		
3	橈骨・尺骨の触診 手根骨について	橈骨・尺骨・手根骨の部分名称、触察		
4	上肢帯における骨触診のまとめ 肩甲上腕関節に関する筋の触診	今までに習った上肢帯での骨触診のおさらい 肩関節内外旋に関わる筋の触察		
5	肩甲上腕間接に関する筋 肩甲胸郭関節に関わる筋	肩甲骨周囲の筋の触察		
6	手関節および手指に関わる筋 肘関節に関わる筋	手関節の運動に関わる筋の触察 肘関節屈曲並びに伸展に関わる筋の触察		
7	手関節および手指に関わる筋②	手指の運動に関わる筋の触察 手内在筋の触察		
8	骨・関節の触診 骨盤・大腿骨・膝関節周辺	骨盤を形成する骨の部分名称・触察 膝蓋骨の触察		
9	骨・関節の触診 足関節および足部周辺	下腿及び側部の骨の部分名称・触察		
10	下肢の靭帯	スカルパ三角関連 膝関節関連 足関節関連		
11	股関節に関わる筋	股関節の運動に関わる筋の触察		
12	膝関節に関わる筋	膝関節の運動に関わる筋の触察		
13	足関節に関わる筋	足関節の運動に関わる筋の触察		
14	体幹—胸郭・脊柱関連 胸郭に関連する諸組織	体幹、脊柱の骨の部分名称・運動に関わる筋の触察		
15	体幹—胸郭・脊柱関連	頸部、背部、腰部の筋の触察		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書: 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢および下肢・体幹 参考図書: ネット解剖学カラーリングテキスト		期末試験	100%	授業は実技形式で行う

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
内臓学	作業療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		植野 英一
授業の概要			
<p>消化器系や循環器系等の臓器について、その位置と構造および機能の理解を深めるとともに、その異常が生じた際にどのような症状が生じるか、さらには日々の生活にどのような影響が生じるであろうか予測できる基礎的知識とする。</p>			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>消化器系や循環器系等の臓器について、その位置と構造および機能について他者に説明できる。</li> <li>国家試験過去問題の正答率6割以上。</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を生かして学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修			
指定テキスト及び配布資料を読んで予習復習に努めること。			
回	テーマ	内容	
1	内臓学オリエンテーション 消化器系の構造と機能 1	内臓学で何を学ぶのか、成績評価、作業療法における内臓学を学ぶことの重要性、食道と胃の構造と生理	
2	消化器系の構造と機能 2	十二指腸・小腸・大腸の構造と生理 肝臓・膵臓・胆のうの構造と生理	
3	消化器系のまとめと国家試験対策	前2回で学んだ内容を国家試験過去問題を解いて知識の整理を行う	
4	呼吸器系の構造と機能 1	咽頭と喉頭の構造と機能 気管支の構造と機能	
5	呼吸器系の構造と機能 2	肺の構造と機能	
6	呼吸器系のまとめと国家試験対策	前回で学んだ内容を国家試験過去問題を解いて知識の整理を行う	
7	泌尿器系の構造と機能 1	腎臓の構造と機能	
8	泌尿器系の構造と機能 2	尿管、膀胱、尿道の構造と尿の生成	
9	泌尿器系のまとめと国家試験対策	前2回で学んだ内容を国家試験過去問題を解いて知識の整理を行う	
10	生殖器と内分泌系の構造と機能	男性生殖器・女性生殖器の構造と機能 内分泌器官の構造と機能	
11	生殖器と内分泌系のまとめと国家試験対策	前回で学んだ内容を国家試験過去問題を解いて知識の整理を行う	
12	循環器系の構造と機能 1	心臓の構造と機能	
13	循環器系の構造と機能 2	血管の構造と機能 血液の再生と赤血球の構造と機能	
14	循環器系の構造と機能 3 循環器疾患のまとめと国家試験対策	リンパ管の構造と機能 リンパ球の構造と機能	
15	総まとめ	前回で学んだ内容を国家試験過去問題を解いて知識の整理を行う	
教科書・教材		評価基準	評価率
・からだみえる 人体の構造と機能 (メディアックメディア)		期末試験 (14回分の習熟度)	100%
			その他 授業中、1度は発言する機会を持つ

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
解剖学実習	作業療法学科/2年	2026/後期	実習	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位(30時間)	必修		大川 麻美	
授業の概要				
<p>人体を構成する器官は、立体的に体格を構築すると共に、体腔内に立体的に納まっている。立体的な認識を得るためには、丁寧な予習に裏付けられた知識と実習室における系統的な観察が重要であり、構造と機能の相関理解に努めることで目的は達成できる。同時に篤志献体された方々のご厚意に触れ、医療人としてあるべき姿を心に刻む。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の基本構造を学習し、筋骨格系、末梢神経系、脈管系、内臓系の構造と機能を理解する。</li> <li>・人体の立体的構造を立体視できる。</li> </ul>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの臨床経験を活かして、臨床との関連性を伝えながら指導する。			
時間外に必要な学修				
予習:解剖学、プロメテウスを精読しておく 復習:確認した内容を整理し、関連する機能解剖学的な意味を考察する				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	心構えと授業の進め方		
2	立体視トレーニング	上肢・下肢筋の配置や相互の位置関係		
3	立体視トレーニング	上肢・下肢筋の配置や相互の位置関係		
4	立体視トレーニング	内臓の構造と位置関係		
5	グループ成果発表 1	関節面の形態と靭帯の課題		
6	グループ成果発表 2	筋の構造と収縮連関の課題		
7	グループ成果発表 3	神経の構造と伝導・シナプス伝達の課題		
8	グループ成果発表 4	上肢帯の神経と血管の走行の課題		
9	グループ成果発表 5	下肢帯の神経と血管の走行の課題		
10	グループ成果発表 6	呼吸器系の課題		
11	グループ成果発表 7	循環系の課題		
12	グループ成果発表 8	消化器系の課題		
13	解剖実習見学	筋骨格系の形と走行、神経血管系との位置関係を観察		
14	解剖実習見学	筋骨格系の形と走行、神経血管系との位置関係を観察		
15	解剖実習見学	筋骨格系の形と走行、神経血管系との位置関係を観察		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版(医学書院) ほか		習熟度試験 グループ成果発表	50% 50%	自主性重視の授業

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学 I	作業療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		廣永 大祐
授業の概要			
動物に特徴的とみなされる生体の高次機能について理解する。			
授業終了時の到達目標			
神経機能、運動、感覚、内分泌による調節などの高次の生命活動について、個々の役割と機能を理解しそれらが相互に協調して働いていることを理解する。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。		
時間外に必要な学修			
予習: テキストを読み、理解しにくい内容を調べる			
復習: 授業で配布した資料で特に講義内で重点的に覚える内容を見直す			
回	テーマ	内容	
1	生理学とは	授業内容の説明 生命のメカニズム、人体機能の基礎を学ぶ	
2	神経 I. 神経系機能一般	神経系の分類、神経系の構造、神経機能一般 錐体路系と錐体外路系	
3	神経 II. 中枢神経系	中枢神経系の概要、分類、機能 脊髄の機能、形態、伝導路	
4	神経 II. 中枢神経系	大脳、小脳、間脳ならびに脳幹の機能、その他	
5	神経 III. 末梢神経系 IV. 自律神経系	脳神経と脊髄神経 自律神経の分類、調節	
6	筋 I. 骨格筋	骨格筋の構造、骨格筋の微細構造、収縮の仕組み	
7	筋 I. 骨格筋 II. 心筋と平滑筋	筋収縮のタイプ、筋収縮の力学、骨格筋のエネルギー代謝 筋線維、心筋、平滑筋	
8	運動 I. 骨格筋の神経支配	運動単位と $\alpha$ 運動ニューロン、神経-筋伝達、骨格筋の感覚受容器、筋紡錘と $\gamma$ 運動ニューロン	
9	運動 II. 各レベルでの運動調節	伸張反射、姿勢反射、拮抗抑制、I b抑制、脊髄レベルの各反射について	
10	感覚 I. 感覚総論 II. 体性感覚	感覚受容器と適刺激、感覚の神経経路、刺激と感覚、触圧覚、温度感覚、体の位置や動きの感覚、痛覚	
11	感覚 III. 内臓感覚 IV. 特殊感覚	臓器感覚、内臓痛覚 視覚、聴覚、平衡感覚、味覚と嗅覚	
12	生殖・成長と老化	生殖器の働き、妊娠、成長と老化	
13	体温	産熱と放熱、体温調節、体温の変動、体温異常など	
14	排泄機能の生理	腎臓と尿産生、排尿・排泄の機構	
15	まとめ	運動生理学 I のまとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率
テキスト: Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学 第1版生理学(メジカルビュー社) ほか		期末試験	100%
			その他 復習し理解すること

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅱ	作業療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位(30時間)	必修		廣永 大祐
授業の概要			
生体の内部環境を好適に保つための機能のうち、生命維持に不可欠な基本的機能について理解する。			
授業終了時の到達目標			
感覚、血液と体液、循環、呼吸、内分泌、消化と吸収などの個々の機能と役割を理解し、運動生理学Ⅰで学んだ機能と共に、生命現象は各機能が協調して維持されていることを理解する。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。		
時間外に必要な学修			
予習：テキストを読み、理解しにくい内容を調べる 復習：授業で配布した資料で特に講義内で重点的に覚える内容を見直す			
回	テーマ	内容	
1	血液 Ⅰ. 血液の組成と一般的性質・機能	血液の組成、機能、一般的(物理的)性質	
2	血液 Ⅱ. 血球 Ⅲ. その他	赤血球、白血球、血小板、止血と血液凝固、血液型	
3	循環 Ⅰ. 循環経路 Ⅱ. 心臓の機能	体循環と肺循環 心臓の特性、心電図	
4	循環 Ⅲ. 血管 Ⅳ. 循環の調節	血管の動き、血液速度と脈拍、血圧、様々な循環調節について	
5	呼吸	外呼吸と内呼吸 呼吸器と呼吸運動	
6	呼吸	肺の換気機能 呼吸器の異常による換気障害	
7	内分泌 ホルモンの種類と作用	ホルモンの種類、作用様式、分泌の調整	
8	内分泌 各内分泌器官とホルモン作用	視床下部、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、生殖器、その他	
9	内分泌 各内分泌器官とホルモン作用	視床下部、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、生殖器、その他	
10	消化と吸収 口腔と食道、胃における消化	口腔、食道、胃の運動、唾液・胃液の性状と生理作用	
11	消化と吸収 小腸、大腸における消化と吸収	小腸・大腸の運動、膵液、胆汁、小腸、大腸における吸収 腸内細菌など	
12	栄養と代謝	糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、エネルギー代謝	
13	栄養と代謝	糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、エネルギー代謝	
14	生理学的検査	血圧・脈拍、心電図、血液ガス分析、スパイロメトリー、筋電図、脳波、血液検査など	
15	まとめ	運動生理学Ⅱのまとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率
テキスト: Crosslink basic リハビリ テーションテキスト 生理学 第1版生理 学(メジカルビュー社) ほか		期末試験	100%
			その他 復習し理解すること

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学演習	作業療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		廣永 大祐
授業の概要			
生体の内部環境を好適に保つための機能のうち生命維持に不可欠な、基本的機能について理解する。			
授業終了時の到達目標			
運動生理学Ⅰ～Ⅲで学んだことを演習にて経験し、生命現象は各機能が協調して維持されていることを理解する。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。		
時間外に必要な学修			
予習：テキストを読み、理解しにくい内容を調べる 復習：授業で配布した資料で特に講義内で重点的に覚える内容を見直す			
回	テーマ	内容	
1	運動生理学演習とは	授業概要の説明 グループワークについて	
2	呼吸①	%肺活量や1秒率などの測定	
3	呼吸②	%肺活量や1秒率などの測定	
4	血圧①	血圧の意味、異常、測定原理など	
5	血圧②	血圧の意味、異常、測定原理など	
6	反射①	運動調節とそれぞれの反射について	
7	反射②	運動調節とそれぞれの反射について	
8	体温調節①	体温調節と生理的な体温の変動について	
9	体温調節②	体温調節と生理的な体温の変動について	
10	筋収縮様式	筋収縮のタイプについて、筋疲労など	
11	グループワーク ①計画	グループで研究テーマの計画を作成	
12	グループワーク ②検証	計画に沿って内容を実験、検証する	
13	グループワーク ③資料作成	検証結果をまとめ、発表準備を行う	
14	グループワーク ④発表	各グループでの発表	
15	まとめ	運動生理学演習のまとめ 本試験について	
教科書・教材		評価基準	評価率
テキスト：Crosslink basic リハビリ テーションテキスト 生理学 第1版生理 学(メジカルビュー社) ほか		レポート課題	100%
			その他 グループワークを 含む

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
脳機能解剖学	作業療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		馬場 広志
授業の概要			
作業療法士として必要な知識である脳の解剖学および機能について体系的に学び、脳の構造や各部位の機能、そしてこれらがどのように運動・感覚、認知機能に関連しているかを学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳の主要な構造と各部位の名称を正しく理解する。</li> <li>・脳の各部位が担う機能を説明できる。</li> <li>・脳の神経回路の働きを概説できる。</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、学生の指導を行う。		
時間外に必要な学修			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：①次のコマの範囲について教科書に目を通しておく ②関連する動画検索をする</li> <li>・復習：①配付資料と教科書を照合する ②確認テスト、国試問題に取り組む</li> </ul>			
回	テーマ	内容	
1	脳の構造を知ろう！ 作業療法に繋がる脳の基礎	1.なぜ脳について学ぶ？ 2.脳全体の構成 3.大脳の解剖学	
2	脳を守る強固な構造 脳の進化・成長、神経細胞	1.骨格、髄膜、脳脊髄液の構造と役割 2.胎児期の脳発達 3.ニューロンの基本構造	
3	脳の最小単位と情報伝達の仕組み	1.脳機能の「基礎の基礎」 2.ニューロンとグリア細胞	
4	大脳の構造と機能局在	1.大脳の全体構造 2.大脳皮質のミクロ構造と機能区分 3.運動野・感覚野の機能局在 4.高次連合野と言語機能	
5	記憶と情動を司る「大脳辺縁系」	1.大脳辺縁系とは何か？ 2.扁桃体と情動・行動の制御 3.左右半球の役割と臨床的連携	
6	大脳基底核 - 運動と行動の選択システム	1.大脳基底核とは何か？ 2.大脳基底核の機能と回路 3.臨床的意義とパーキンソン病	
7	大脳基底核 - 運動と行動の選択システム	1.すべての感覚の玄関口「視床」 2.視床の構造 3.視床の多様な機能 4.臨床的意義と作業療法	
8	小脳 ～「運動の裏方」の驚くべき能力～	1.小脳の全体像 2.小脳の内部構造 3.小脳の重要な機能 4.小脳機能障害	
9	脳幹 - 生命維持と情報の統合中枢	1.生命を司る「脳幹」 2.脳幹の構造と通過する情報 3.生命維持機能と広範な調節系 4.臨床的意義とOTの介入	
10	脳室・髄液の循環と、脳動脈の走行	1.4つの脳室 2.髄液の産生と循環 3.脳動脈、ウィリス動脈輪 4.OTが遭遇する疾患	
11	12対の脳神経 ～顔と体をつなぐ～	1.中枢と末梢の架け橋 2.脳神経の全体像 3.脳神経の分類 4.OTの介入	
12	脊髄神経と脊髄の構造 ～「脳」と「体」のネットワーク～	1.脊髄 2.灰白質・白質 3.前根・後根、前角・後角 4.脊髄神経、デルマトーム	
13	運動と感覚の伝導路 ～「情報の通り道」～	1.運動の伝導路：企画・プログラミング・実行 2.感覚の伝導路：後索路・脊髄視床路	
14	高次脳機能とこころのしくみ ～脳内ネットワーク～	1.言語のしくみ 2.記憶と学習のしくみ 3.情動とストレス	
15	脳機能解剖に関するまとめ	これまでの振り返り 国家試験に挑戦	
教科書・教材		評価基準	評価率
ぜんぶわかる脳の事典 配布資料		期末試験	100.0%
			その他 協力しあって理解を深めよう。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
人間発達学	作業療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		馬場 広志
授業の概要			
発達的一般原則、発達理論を学習し、胎児期から老年期に至るまでの、人間の身体的な成長・発達および精神的な発達を学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発達的一般原則、発達理論の概略を理解する。</li> <li>・ 発達に関係する因子と理論を理解する。</li> <li>・ 情緒の発達、社会性の発達、運動の発達等を家族関係、母子相互作用の視点から理解する。</li> <li>・ 小児期から老年期までの身体的・心理的発達の特質と変化を関連付けて説明できる。</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、実例を挙げながら伝える。		
時間外に必要な学修			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習：①次のコマの範囲について教科書に目を通しておく ②関連する動画検索をする</li> <li>・ 復習：①配付資料と教科書を照合する ②確認テスト、国試問題に取り組む</li> </ul>			
回	テーマ	内容	
1	オリエンテーション、発達概念	本講義について 発達の区分、定義、成長曲線、発達の原則、発育曲線	
2	発達理論	エリクソン・ピアジェの発達理論	
3	胎生期から新生児期の発達	胎生期、新生児期の身体・認知の発達について	
4	乳児期の発達	乳児期の身体・認知・社会性の発達について	
5	幼児期から学童期の発達	幼児期前期・後期、学童期の身体・認知・社会性の発達について	
6	遊びの発達	児にとっての遊びについて	
7	青年期から老年期の発達	青年期、成人期、老年期の身体・認知・社会性の発達について	
8	上肢機能の発達	リーチ、握りをつまみ、操作、リリース、目と手の協調性の発達	
9	ADLの発達	食事、排泄、更衣など日常生活動作獲得に至るまでの発達	
10	姿勢反射/反応 1	原始反射、姿勢反射/反応について 脊髄レベル	
11	姿勢反射/反応 2	脳幹レベル	
12	姿勢反射/反応 3	中脳レベル、大脳皮質レベル	
13	運動発達 1	新生児期、乳児期の腹臥位・背臥位	
14	運動発達 2	新生児期、乳児期の座位、立位	
15	発達検査について	発達検査とは？遠城寺式乳幼児分析的発達検査法、日本版デンバー式発達スクリーニング検査	
教科書・教材		評価基準	評価率 その他
セラピストのための基礎4科目テキスト 人間発達学 (三輪書店)		期末試験	100.0% 自身の生涯と関連付けよう。

# **疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進**

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学	作業療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		廣永 大祐
授業の概要			
病理学とは何か? 人類の歴史で疾患の変遷を理解する。主な疾患の病因を理解する。			
授業終了時の到達目標			
疾患の病因に関して外因と内因について説明できる。 臓器毎に主な疾患の病因を説明できる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。		
時間外に必要な学修			
予習: テキストを読み、理解しにくい内容を調べる 復習: 授業で配布した資料で特に講義内で重点的に覚える内容を見直す			
回	テーマ	内容	
1	組織細胞の修復と再生	壊死とアポトーシス、再生、創傷治癒、肉芽組織、骨折、異物処理	
2	循環障害	うっ血、充血、虚血、梗塞(血栓、塞栓)、出血、壊死、ショック	
3	炎症、感染症、免疫機構	炎症とはなにか、感染の成立、感染防御機構、免疫反応、アレルギー、自己免疫疾患	
4	腫瘍	発癌機序、良性と悪性の鑑別、腫瘍発生の要因、転移(血行性、リンパ行性、播種)、癌の疫学	
5	遺伝と先天異常	遺伝病、染色体異常症、単一遺伝子病、遺伝子診断、先天異常の病因	
6	代謝異常	糖尿病(I型、II型)、高脂血症、痛風、黄疸、アミロイドーシス、糖原病	
7	循環器と呼吸器の疾患	虚血性心疾患、心筋症、弁膜症、肺癌、肺炎、間質性肺炎、結核、気管支喘息	
8	消化器の疾患	食道癌、胃潰瘍、胃癌、大腸癌、潰瘍性大腸炎、ウイルス肝炎、肝癌、肝硬変、膵癌、胆石症	
9	内分泌系の疾患	下垂体腫瘍、甲状腺機能亢進症、橋本病、甲状腺癌、クッシング病、アジソン病、	
10	造血期の疾患	貧血の分類、白血病の分類、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血友病	
11	泌尿器・生殖器の疾患	急性糸球体腎炎、腎癌、膀胱癌、前立腺肥大、前立腺癌、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、乳癌	
12	運動器、皮膚の疾患	骨折、関節リウマチ、骨腫瘍、椎間板ヘルニア、軟部腫瘍、皮膚の感染症、皮膚腫瘍	
13	脳・神経系の疾患	脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血、脳腫瘍、パーキンソン病、アルツハイマー病、脱髄疾患、感染症	
14	炎症の経時的変化について	組織や細胞の壊死、充血	
15	感染症について	感染症 ウイルス 細菌	
教科書・教材		評価基準	評価率
テキスト: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学(医学書院)		期末試験	100%
			その他 テキストをよく読み内容を理解すること

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
臨床心理学	作業療法学科/1年	2026/後期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必修		福田 琴	
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理分野の疾患の理解。</li> <li>各疾患の治療法を学ぶ。</li> <li>自分たちの職種が出来る範囲のことを知る。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理分野の疾患を理解する。</li> <li>各疾患の治療法を理解する。</li> <li>自分たちの職種で出来る各疾患の治療を学ぶと共に、自分で考える。</li> </ul>				
時間外に必要な学修				
予習：授業前に教科書、配布資料を確認しておくこと。 復習：実際に学んだ内容を教科書と照らし合わせること。				
回	テーマ	内容		
1	臨床心理学概論	臨床心理学の歴史 各種心理テストの概略 など		
2	神経症 1 (不安障害)	不安障害の種類 強迫性障害とパニック障害に対する暴露療法 など		
3	神経症 2 (身体表現性障害)	転換性障害のメカニズム 心気症と心身症の違い など		
4	神経症 3 (解離性障害) 適応障害	解離性障害の防衛メカニズム 離人症性障害の症状 など		
5	人格障害 1	各クラスターに属するパーソナリティ障害 など		
6	人格障害 2	パーソナリティ障害の合併 クラスターC (回避性パーソナリティ障害など)		
7	摂食障害 統合失調症について	神経性無食欲症、過食発作 統合失調症の概念、歴史、下位分類		
8	依存症 気分障害について	依存症の種類、依存と乱用の違い 双極性障害と大うつ病の違い、認知行動療法		
9	てんかん、睡眠障害 性障害について	てんかんの原因、発作の種類、脳波の特徴 睡眠・覚醒リズム障害の概要、性障害の分類		
10	子供の精神障害とその周辺について 1	精神遅滞と知能指数の関係、学習障害の種類 注意欠陥・多動性障害の原因と症状		
11	子供の精神障害とその周辺について 2	社会問題となった子供の異常の数々を知る。 児童虐待について		
12	老化とその障害 リラクゼーションについて	アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違い 各種リラクゼーション法の概要		
13	精神療法 力動精神療法	フロイト精神分析、家族療法、集団療法 力動精神療法の流れ、自我心理学の概要		
14	認知行動療法 支持療法	認知行動療法の概要、ベックの方法論 支持療法の歴史、心理療法的アプローチ		
15	薬物療法 セルフアセスメント	薬物の種類と副作用、脳内ホルモンの働き 臨床心理学全体の総括		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・PT・OT 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学 (医学書院)		期末試験	100%	

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
一般臨床医学	作業療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		植野 英一
授業の概要			
医学一般について幅広く知識を深めていく学問であり、救命救急医療をはじめ、外科など代表的な疾患の概要・症状・治療について習得する。			
授業終了時の到達目標			
救命救急医療について理解すると共に命の尊さを学ぶ。 授業で紹介する代表的な疾患の理解を深め、解剖運動学や運動生理学など基礎医学との関連性を理解する。また、作業療法サービスを展開する上で、サービス向上やリスク管理にどのように活かせるのか説明できる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 病院や介護保険施設での経験を活かして学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修			
以下に記す授業内容について指定テキストを中心に予習復習に努めること。			
回	テーマ	内容	
1	授業概要の説明 救命救急医療について	授業概要の説明⇒一般臨床医学で何を学ぶのか、成績評価 心肺蘇生法⇒一次救命処置、二次救命処置	
2	ショックについて	ショックについて 一般症状、種類、治療	
3	救急処置	外傷、急性心筋梗塞、意識障害、てんかん ほか ICU、NICUの役割	
4	外科総論 1	機械的損傷と非機械的損傷について	
5	外科総論 2	感染性疾患、末梢血行障害、臓器移植 他	
6	脳神経外科概論	症状（頭痛、意識障害、痙攣など）、神経学的補助診断法 主な疾患（頭部外傷、脳梗塞など）	
7	皮膚科疾患 1	皮膚の構造、皮疹の特徴 湿疹・皮膚炎、皮膚薬について	
8	皮膚科疾患 2	代表的な皮膚疾患の症状とその原因および治療法 皮膚感染症、動物寄生虫による疾患、物理的皮膚障害	
9	泌尿器・生殖器疾患 1	解剖・生理、診断・検査法、びまん性腎実質性疾患、腎・ 尿路の先天異常と通過障害 ほか	
10	泌尿器・生殖器疾患 2	尿路感染症、腎障害、透析療法 ほか 男性生殖器の先天異常・感染症 ほか	
11	婦人科・産科疾患 1	解剖・生理、内分泌異常、女性器の炎症、腫瘍 ほか	
12	婦人科・産科疾患 2	妊娠の成立、妊娠に伴う母体の変化、妊娠の異常、分娩 ほか	
13	眼科疾患	目の構造、検査法、目の症候 代表的な眼疾患（屈折異常、白内障、緑内障 など）	
14	耳鼻咽喉科疾患	代表的な耳鼻咽喉科疾患における症状や治療法	
15	総まとめ	第1回から14回までの内容の確認とそれに関連したトピックス	
教科書・教材		評価基準	評価率
PT・OT・STのための一般臨床医学（医歯薬出版社）		期末試験	100%
			その他

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション 栄養学・薬理学	作業療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		植野 英一
授業の概要			
作業療法士が対象者・対象児の生活行為向上を目指す上で栄養に関する知識と服薬状況を把握することはとても重要である。よって、それらの基礎的知識を習得し作業療法サービスを活かす準備を行う。 (※循環器や呼吸器などに関する薬物は、内科学等の各疾患学で学ぶ)			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各栄養素が多く含まれる食品と栄養素の役割について説明できる</li> <li>・薬が作用する仕組みをはじめ、自律神経・アレルギー・炎症・血液・輸液・麻酔に関する薬について、その作用や代表的な薬物について説明できる</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 病院や介護保険施設での経験を活かして学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修			
下記を参考に予習を行う。また、講義後は復習を行い、不明な点は調べたり、教員に問いかける。			
回	テーマ	内容	
1	授業概要の説明 栄養とは何か、消化器のしくみ①	授業概要の説明：何を学ぶのか、成績評価 食べることの意味、栄養不良と過栄養、消化器	
2	消化器のしくみ②	各部位での消化と吸収	
3	三大栄養素	糖質、タンパク質、脂質	
4	ビタミンのはたらき	脂溶性ビタミン (A、D、E、K)、水溶性ビタミン (ビタミンC、ビタミンB群)	
5	ミネラルのはたらき	ナトリウム、クロール、カリウム、カルシウム、リン、鉄、マグネシウム、亜鉛、銅の役割	
6	その他の栄養素のはたらき	食物繊維、ポリフェノール、糖アルコール、カフェイン等の働き	
7	疾患と栄養	メタボリックシンドローム、糖尿病、虚血性心疾患、腎臓病、がん等と栄養について	
8	薬の作用 自律神経に作用する薬①	薬と受容体、薬の血中濃度、薬の投与方法 交感神経と副交感神経、交感神経作動薬	
9	自律神経に作用する薬②	副交感神経作動薬、抗コリン薬	
10	アレルギーに作用する薬	プロスタグランジン、ヒスタミンとセロトニン、抗アレルギー薬	
11	炎症に作用する薬	副腎皮質ステロイド薬、非ステロイド性抗炎症薬、抗リウマチ薬	
12	血液に作用する薬	鉄欠乏性貧血、その他の貧血、血液凝固、抗凝固薬、輸血	
13	輸液に関する薬	水分と電解質、輸液、中心静脈栄養、ビタミン	
14	抗菌薬	細菌、抗菌薬の種類、抗菌薬、抗ウイルス薬	
15	総まとめ	過去14回分の授業のまとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率
イラストでまなぶ薬理学 (医学書院) リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 第3版 (医歯薬出版)		期末試験	100%
			その他
			授業の終わりに何を学んだか一人1つ発表する

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
内科学	作業療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		植野 英一
授業の概要			
リハビリテーション(作業療法)に関係深い内科系疾患について、疾患概念や病態および治療法について基本的な知識を習得する			
授業終了時の到達目標			
授業で説明する循環器疾患や呼吸器疾患などの代表的な疾患の原因・症状・治療および生活における注意点を他者に説明できる			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 病院や介護保険施設での経験を活かして学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修			
以下に記す講義内容を参考に、予習をメインに自己学習に努める。			
回	テーマ	内容	
1	オリエンテーション 内科概論	内科学で何を学ぶのか、成績評価、作業療法における内科学を学ぶことの重要性、内科学の進歩ほか	
2	循環器疾患 1	構造と機能、主要な臨床症状、循環器疾患の検査	
3	循環器疾患 2	心不全、高血圧症、虚血性心疾患、不整脈ほか	
4	腎疾患、水電解質代謝	構造と機能、主要症状、腎疾患の検査	
5	腎臓・泌尿器疾患	慢性腎臓病、腎不全、糸球体の疾患ほか	
6	呼吸器疾患 1	構造と機能、主要症状、呼吸器疾患の検査	
7	呼吸器疾患 2	感染性呼吸器疾患、気道閉塞性疾患	
8	呼吸器疾患 3	腫瘍性肺疾患、胸膜の疾患、塵肺、アレルギー性肺疾患	
9	消化管疾患 1	構造と機能、主要症状、消化管疾患の検査	
10	消化管疾患 2	食道疾患、胃・十二指腸疾患、小腸・大腸疾患	
11	肝・胆・膵疾患 1	構造と機能、主要症状、肝・胆・膵疾患の検査	
12	肝・胆・膵疾患 2	急性膵炎、慢性膵炎、肝硬変、肝腫瘍、胆石症、ほか	
13	代謝性疾患 1	肥満症、やせ、糖尿病、脂質異常症、ほか	
14	内分泌疾患	間脳関連疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患、ほか	
15	血液疾患	赤血球性系の疾患、白血球系の疾患、リンパ網内系疾患	
教科書・教材		評価基準	評価率
Crosslink basic リハビリテーションテキスト 内科学 (メジカルビュー社)		期末試験	100%
			その他 毎回の授業で学んだことを他者に説明する

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科 I	作業療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		馬場 広志
授業の概要			
下肢・体幹の整形外科に関する代表的な疾患の病態、治療を理解する			
授業終了時の到達目標			
下肢・体幹の整形外科に関する代表的な疾患の病態を各種検査から理解し、それに関連した保存療法やリハビリテーションに役立つことができる			
実務経験有無	実務経験内容		
有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法士として5年以上の実務経験</li> <li>・病院での実務経験を生かして学生に分かりやすく説明する。</li> </ul>		
時間外に必要な学修			
予習: ①次のコマの範囲について教科書に目を通しておく ②関連する動画検索をする			
復習: ①配付資料と教科書を照合する ②確認テスト、国試問題に取り組む			
回	テーマ	内容	
1	診察・症候、検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診察の流れ</li> <li>・単純X線検査 ・CT ・MRI</li> </ul>	
2	下肢の疾患 股関節 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・股関節疾患総論 ・大腿骨骨頭壊死</li> </ul>	
3	下肢の疾患 股関節 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腿骨頭すべり症 ・Perthes病</li> <li>・発育性股関節形成不全 (DDH)</li> </ul>	
4	下肢の疾患 股関節 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変形性股関節症</li> </ul>	
5	下肢の疾患 膝関節 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・膝関節疾患総論</li> <li>・膝半月板損傷 (内外側半月板損傷など)</li> </ul>	
6	下肢の疾患 膝関節 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・膝靭帯損傷 (前十字靭帯損傷など)</li> </ul>	
7	下肢の疾患 膝関節 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変形性膝関節症</li> </ul>	
8	下肢の疾患 足関節	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足の疾患総論 ・足関節靭帯損傷</li> <li>・アキレス腱断裂 ・先天性内反足</li> </ul>	
9	体幹の疾患 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脊椎、脊髄疾患総論</li> <li>・脊椎損傷 (脊椎圧迫骨折)</li> </ul>	
10	体幹の疾患 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脊髄損傷</li> </ul>	
11	体幹の疾患 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脊髄損傷</li> </ul>	
12	体幹の疾患 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・椎間板ヘルニア ・脊柱管狭窄症</li> <li>・脊椎分離症 ・脊椎分離すべり症</li> </ul>	
13	体幹の疾患 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頚椎症性脊髄症、神経根症 ・後縦靭帯骨化症 (OPLL) ・黄色靭帯骨化症</li> </ul>	
14	体幹の疾患 6 脊椎関節炎、結晶誘発性関節炎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脊椎側弯症 ・強直性脊椎炎</li> <li>・痛風 ・偽痛風 ・変形性脊椎症</li> </ul>	
15	下肢・体幹の整形外科 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整形外科 I の内容と国試問題のまとめ</li> </ul>	
教科書・教材		評価基準	評価率
病気がみえるVol.11 運動器・整形外科 (メディック・メディア)		期末試験	100%
			解剖学の知識と関連づけよう。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
整形外科Ⅱ	作業療法学科/2年	2026/後期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位(30時間)	必修		大川 麻美	
授業の概要				
整形外科の一般的疾患について病態と治療について解説する。				
授業終了時の到達目標				
整形外科の一般的疾患に対する診断法と治療法を理解し、保存療法やリハビリテーションの実施に役立てることができる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法士として5年以上の実務経験</li> <li>・病院での実務経験を交えながら授業を進める</li> </ul>			
時間外に必要な学修				
予習: 次のテーマについてテキストをよんでおく				
復習: 国家試験問題を振り返る				
回	テーマ	内容		
1	末梢神経損傷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・末梢神経損傷総論</li> <li>・胸郭出口症候群</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腕神経叢損傷</li> </ul>	
2	末梢神経損傷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前腕の末梢神経麻痺</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下肢末梢神経損傷</li> </ul>	
3	外傷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨折総論</li> <li>・区画症候群</li> </ul>		
4	外傷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合性局所疼痛症候群</li> <li>・鎖骨骨折</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上腕骨骨折</li> </ul>	
5	外傷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前腕骨折</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手の骨折</li> </ul>	
6	外傷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脱臼総論</li> <li>・肩関節脱臼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・股関節脱臼</li> </ul>	
7	外傷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ外傷</li> </ul>		
8	リウマチ性疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関節リウマチ</li> </ul>		
9	リウマチ性疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関節リウマチ</li> </ul>		
10	代謝性骨疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨粗鬆症</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨軟化症</li> </ul>	
11	肘の疾患総論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肘の解剖及び正常画像</li> <li>・上腕骨外側/内側上顆炎の症状及び病態</li> </ul>		
12	手の疾患総論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腱鞘炎</li> <li>・ばね指</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・槌指(マレット変形)</li> </ul>	
13	国家試験問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験問題を解く</li> </ul>		
14	国家試験問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験問題を解く</li> </ul>		
15	整形外科Ⅱまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整形外科Ⅱのまとめ</li> <li>・定期試験の試験範囲について説明</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科 (メディク・メディア)		期末試験	100%	教科書中心とする

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
神経病学 I	作業療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		馬場 広志
授業の概要			
神経解剖・神経生理などの基本的医学知識に基づき、主に脳神経外科に関する各疾患の病因や臨床症状、治療などについて学習する。			
授業終了時の到達目標			
解剖学と生理学の知識に基づき、各疾患の病態(生じる仕組み)を理解する。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 病院での臨床経験を活かし、各疾患の特徴を分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修			
・予習: ①次のコマの範囲について教科書に目を通しておく ②関連する動画検索をする ・復習: ①配付資料と教科書を照合する ②確認テスト、国試問題に取り組む			
回	テーマ	内容	
1	神経系の構造と機能	神経系の全体像、ニューロンとグリア細胞 大脳皮質、大脳辺縁系・大脳基底核・脳幹・小脳	
2	中枢神経系解剖生理学 脳血管障害総論	脳の機能局在と伝導路、脳動脈の走行と灌流域 脳血管障害の概要と分類	
3	運動と感覚	運動の異常と調整 感覚の異常	
4	脳梗塞 1	アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症	
5	脳梗塞 2	ラクナ梗塞、一過性脳虚血発作、Wallenberg症候群、小脳梗塞、頸動脈狭窄症	
6	脳梗塞 3	脳梗塞の画像診断 急性期治療	
7	脳内出血 1	被殻出血、視床出血	
8	脳内出血 2	脳幹出血、小脳出血、皮質下出血	
9	脳動脈瘤とくも膜下出血	脳動脈瘤の形成、好発部位、分類、画像所見、くも膜下出血の症状・経過・治療	
10	脳神経とその障害 1	脳神経の解剖と生理、脳神経障害	
11	脳神経とその障害 2	脳神経の解剖と生理、脳神経障害 (I ~ IV, VI)	
12	脳神経とその障害 3	脳神経の解剖と生理、脳神経障害 (V, VII ~ XII)	
13	脳腫瘍	脳腫瘍とは? 神経膠腫、髄芽腫	
14	頭部外傷	頭蓋骨骨折、急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、脳内血腫、脳挫傷、慢性硬膜下血腫、びまん性軸索損傷	
15	まとめ	要点の再確認	
教科書・教材		評価基準	評価率
病気が見えるvol.7 脳・神経 (メディックメディア)		期末試験	100%
			その他 解剖学の知識と関連づけよう。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
神経病学Ⅱ	作業療法学科/2年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位(30時間)	必修		馬場 広志
授業の概要			
神経解剖・神経生理などの基本的医学知識に基づき、主に神経内科に関する各疾患の病因や臨床症状、治療などについて学習する。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経系のはたらき、役割、機能について理解する。</li> <li>・各神経疾患の症状、治療法、予後について理解する。</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 病院での臨床経験を活かし、各疾患の特徴を分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習: ①次のコマの範囲について教科書に目を通しておく ②関連する動画検索をする</li> <li>・復習: ①配付資料と教科書を照合する ②確認テスト、国試問題に取り組む</li> </ul>			
回	テーマ	内容	
1	神経変性疾患 1 (Parkinson病)	神経変性疾患総論 Parkinson病の概要、4症状について	
2	神経変性疾患 2 (Parkinson病)	Parkinson病の治療薬、副作用	
3	神経変性疾患 3 (Parkinson症候群)	Parkinson症候群、進行性核上性麻痺 大脳皮質基底核変性症、Huntington病	
4	神経変性疾患 4 (脊髄小脳変性症 SCD)	脊髄小脳変性症の概要、分類	
5	神経変性疾患 5 (筋萎縮性側索硬化症 ALS)	筋萎縮性側索硬化症(ALS)の概要	
6	神経変性疾患 6 (筋萎縮性側索硬化症 ALS)	筋萎縮性側索硬化症(ALS)の陰性徴候	
7	脱髄性疾患 (多発性硬化症 MS)	脱髄疾患総論、多発性硬化症 視神経脊髄炎	
8	末梢神経障害 (Guillan-Barre症候群)	末梢神経疾患総論(概念、分類) Guillan-Barre症候群、Charcot-marie-Tooth病	
9	脊髄とその障害	脊髄梗塞、脊髄動静脈奇形、脊髄空洞症	
10	末梢神経とその障害	末梢神経の解剖生理、絞扼・圧迫性ニューロパチー	
11	先天奇形	二分脊椎、Chiari奇形、頭蓋縫合早期癒合症	
12	筋疾患 1	筋疾患総論、デュシェンヌ型筋ジストロフィー	
13	筋疾患 2	各筋ジストロフィー	
14	筋疾患 3	ミトコンドリア脳筋症、周期性四肢麻痺 多発性筋炎、皮膚筋炎	
15	まとめ	神経系の構造と各疾患について振り返り	
教科書・教材		評価基準	評価率
病気が見えるvol.7 脳・神経 (メディックメディア)		期末試験	100%
			その他 解剖学の知識と関連づけよう。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
精神医学	作業療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		植野 英一
授業の概要			
精神医学の基礎について学び、作業療法業務に役立てる。 国家試験に準拠した内容を十分に理解して、日常業務に役立てる。			
授業終了時の到達目標			
授業で説明する代表的な精神疾患の原因・症状・治療について、その概要を他者に説明できる。 定期試験6割以上の正答。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を生かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修			
以下に記す講義内容を参考に、指定テキストを使用して予習復習に努める。			
回	テーマ	内容	
1	授業概要の説明 精神医学とは	授業概要の説明、精神医学とは、精神障害にかかわる概念、精神障害の分類、作業療法との関連事項	
2	認知症 1	アルツハイマー病の病態、診断、治療 レビー小体型認知症の病態、診断、治療	
3	認知症 2	前頭側頭型認知症（ピック病）の病態、診断、治療 認知症の国家試験過去問題を解く	
4	アルコール依存症	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
5	統合失調症およびその関連障害	統合失調症とは、疫学、精神症状の特徴、病型、成因 ないし病態、治療、自己臭恐怖の病態	
6	うつ病	うつ病の病態、診断、治療	
7	双極性障害	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
8	パニック症	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
9	適応障害	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
10	摂食障害	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
11	睡眠障害	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
12	境界性パーソナリティ障害	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
13	自閉症	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
14	てんかん	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
15	総まとめ	総まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率
臨床につながる精神医学（医歯薬出版）		期末試験	100%
			その他 毎回、授業の終わりに質問時間を設ける

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
老年学	作業療法学科/2年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		谷渕 加奈子
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体面・精神面・社会面・生活面の観点から高齢者を多面的に理解する。</li> <li>・老化にともなう生じる障害や病態について理解する。</li> <li>・高齢障害者に対する作業療法士の役割を考察する。</li> </ul>			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年期における身体的・精神的変化について説明できる。</li> <li>・高齢者に特有な疾病の特徴を説明できる。</li> <li>・高齢者の特徴を踏まえ、適切な関わりを実践できる。</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの高齢期領域の作業療法実践を活かして授業を進めていく。		
時間外に必要な学修			
予習：該当範囲の教科書を読んでおく。			
復習：学んだ範囲の復習と、解剖学・運動学・生理学等の復習をしておくこと。			
回	テーマ	内容	
1	老年学総論 1	1) 老年学とは 2) 高齢者とは	
2	老年学総論 2	1) 加齢に伴う運動機能の変化 2) 加齢に伴う精神・心理機能の変化	
3	高齢者に特有の疾患・障害 1	1) 老年症候群、廃用症候群 2) 高齢者に何が必要か	
4	高齢者に特有の疾患・障害 2	1) 高齢者の薬物療法 2) フレイル・サルコペニア	
5	高齢者に特有の疾患・障害 3	1) 骨粗鬆症 2) 転倒・骨折 3) 変形性関節症 4) 腰痛	
6	高齢者に特有の疾患・障害 4	1) 栄養障害 低栄養と過栄養	
7	高齢者に特有の疾患・障害 5	1) 摂食・嚥下障害 2) 褥瘡 3) 脱水	
8	高齢者に特有の疾患・障害 6	1) 軽度認知障害 (MCI) 2) 認知症1 (概要～予防)	
9	高齢者に特有の疾患・障害 7	1) 認知症2 (評価～支援方法) 2) うつ病	
10	高齢者に特有の疾患・障害 8	1) 心疾患 2) 呼吸器疾患	
11	高齢者に特有の疾患・障害 9	1) 生活習慣病 2) がん	
12	地域の高齢者との交流 1	OT塾の準備	
13	地域の高齢者との交流 2	OT塾実施	
14	高齢者を取り巻く課題 1	介護と虐待問題	
15	高齢者を取り巻く課題 2 まとめ	高齢者の交通安全、触法高齢者、特殊詐欺 振り返りと定期試験に向けて	
教科書・教材		評価基準	評価率
リハビリテーション基礎講座 老年学 (医 歯薬出版)、配布資料		期末試験 課題・レポート	90% 10%
			その他
			課題の提出期限を守ら なかった場合は、評価 対象外とする。

**保健医療福祉と  
リハビリテーションの理念**

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション医学概論	作業療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		坂口 千恵美
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション医学の本質を探究しながら、リハビリテーション医療の状況把握と今後の発展性について学ぶ。</li> <li>・多職種連携、チームアプローチの重要性について学ぶ。</li> </ul>			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション医療に従事する専門職として、リハビリテーションの理念と今後の発展性について説明できる。</li> <li>・他職種連携、チームアプローチの重要性を説明できる。</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修			
予習：該当する科目の教科書や文献を読んでおく 復習：提出課題を課すので、 $\times$ 切厳守で提出すること			
回	テーマ	内容	
1	オリエンテーション リハビリテーションの理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業概要</li> <li>・リハビリテーションという言葉と定義 ほか</li> </ul>	
2	リハビリテーションの対象と障害者の実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学的リハビリテーションの対象</li> <li>・障がい者・障がい児の実態 ほか</li> </ul>	
3	障害の階層とアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICFについて</li> <li>・病気と障害の相違 ほか</li> </ul>	
4	リハビリテーション評価学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の評価</li> <li>・身体所見 ほか</li> </ul>	
5	リハビリテーション治療学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的アプローチ</li> <li>・廃用症候群 ほか</li> </ul>	
6	ライフステージにおける障害特性 高齢者のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフサイクル、障害児の特性 ほか</li> <li>・サルコペニアとフレイル、老年症候群 ほか</li> </ul>	
7	脳損傷のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳卒中、脳外傷、低酸素脳症との比較</li> </ul>	
8	脊髄損傷のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脊髄損傷の原因と損傷のタイプ</li> <li>・機能障害と活動制限およびそれらへのアプローチ</li> </ul>	
9	神経筋疾患のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーキンソン病、SCD、MSなどのリハビリテーション</li> </ul>	
10	運動器疾患のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変形性関節症や関節リウマチなどのリハビリテーション</li> </ul>	
11	呼吸器疾患のリハビリテーション 心血管系のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肺炎、慢性閉塞性肺疾患のリハビリテーション</li> <li>・心不全、虚血性心疾患のリハビリテーション</li> </ul>	
12	肢体不自由児のリハビリテーション 発達障害のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳性麻痺、筋ジストロフィー ほか</li> <li>・自閉症スペクトラム、注意欠如・多動性障害 ほか</li> </ul>	
13	がんのリハビリテーション 災害医療とリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんのリハビリテーションの特徴 ほか</li> <li>・被災者に接する7つのポイント ほか</li> </ul>	
14	精神障害のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うつ病など精神障害の基礎事項</li> <li>・精神障害のリハビリテーションの概要</li> </ul>	
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識整理</li> <li>・国家試験問題演習</li> </ul>	
教科書・教材		評価基準	評価率
<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料</li> <li>・リハビリテーション医学 (羊土社)</li> </ul>		期末試験 提出課題	80% 20%
			その他
			提出課題は、内容と $\times$ 切を合わせたの点数とする

# 基礎作業療法学

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法概論	作業療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		谷渕 加奈子
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>作業療法の理念や理論について学び、作業療法に対する理解を深める。</li> <li>作業療法士に求められる役割や専門性について学ぶ。</li> </ul>			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>作業療法の対象および範囲について説明できる。</li> <li>作業療法士の役割、作業療法の過程、主な業務内容について説明できる。</li> <li>作業療法の魅力や可能性を自らの言葉で述べ、今後の学修への目標を主体的に設定できる。</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法実践経験を活かし、作業療法の魅力を説明する。		
時間外に必要な学修			
予習：該当範囲の教科書を読んでおく。 復習：教科書と資料を使って、学んだ範囲の振り返り。			
回	テーマ	内容	
1	作業とは 1	1、作業と作業療法 3、作業療法の定義	2、生活を構成する作業活動
2	作業とは 2	4、課題	5、発表
3	作業療法の領域 1	1、作業療法の対象	2、作業療法の領域
4	作業療法の領域 2	3、作業療法の実践の流れ	4、作業療法の実施場所
5	障害体験 1	1、片麻痺者を想定したADL・IADLの実施	
6	障害体験 2	2、グループワーク	3、発表
7	作業療法の歴史・理論 1	1、日本の歴史 2、世界の歴史	
8	作業療法の歴史・理論 2	3、各国の状況 4、代表的な作業療法の理論について	
9	作業療法の法と倫理	1、理学療法士および作業療法士法 2、日本作業療法士協会倫理綱領	
10	多職種連携によるチームアプローチ	1、専門職チームの意味と意義 2、チームのタイプと特徴 3、組織の連携	
11	作業療法の実践課程 1	1、目的 2、実践課程 3、評価と問題点の抽出	
12	作業療法の実践課程 2	4、ICFモデル 5、治療・指導・援助計画の立案・フォローアップ	
13	各領域における作業療法実践課程 1	1、身体機能分野 2、精神機能分野	
14	各領域における作業療法実践課程 2	3、発達過程分野 4、高齢期分野 グループワーク・講義	
15	まとめ	振り返り	
教科書・教材		評価基準	評価率
作業療法学概論 (医学書院)		期末試験 課題・チームワーク	70% 30%
			その他 課題の提出期限を守らなかつた場合は、評価対象外とする。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学	作業療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位(30時間)	必修		大川 麻美
授業の概要			
人間の営みである「作業」が持つ特性を理解し、その治療的意義を学ぶ。 簡単な手芸などの体験を通じ、活動が身体や精神に与える影響を客観的に観察・分析する。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業遂行に関心をもち、身辺処理—生産活動—余暇を連続したながれで考えられるようになる</li> <li>・作業療法の魅力が高まること</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修			
予習:日常生活における様々な作業に対して関心を持つ 復習:与えられた課題を適切にこなす			
回	テーマ	内 容	
1	作業・作業活動	基礎作業学とは 作業の意味・特徴・作業活動 作業の障がい	
2	障がいとは	作業の分類とOTのかかわりかた 健康と作業 脳と作業活動との関係	
3	道具と作業の関係	人が作業をすることの効果 作業療法の症例紹介	
4	作業活動に伴う効用	効用の理解	
5	作業分析 1	分析とは 実際の作業を用いながら行う	
6	作業分析 2	実際の作業(ADL)を用いながら動作分析	
7	作業分析 3	実際の作業(手芸)を用いながらOT視点での分析	
8	作業分析 4	実際の作業(手芸)を用いながらOT視点での分析	
9	作業分析 5	実際の作業(遊び)を用いながらOT視点での分析	
10	作業をどのようにもちいるか 1	作業をどのようにもちいるか 障がいとの関係	
11	作業をどのようにもちいるか 2	効果的な学習条件	
12	指導法 1	指導法	
13	指導法 2	伝え伝わり かかわりのコツ	
14	作業の治療的応用	症例提示し作業訓練の紹介	
15	症例検討	治療としての意味を考える	
教科書・教材		評価基準	評価率
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業—その治療的応用(協同医書出版)</li> <li>・ひとと作業(三輪書店) ほか</li> </ul>		課題・レポート	100%
			その他 グループ活動含む

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
作業治療学実習 I	作業療法学科/1年	2026/後期	実習	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必修		馬場 広志	
授業の概要				
作業療法で用いられるアクティビティを体験するといった自身の五感を通じた学びから、作業活動が身心に影響することを学ぶ。また様々な情動に素直に向き合う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品を最後まで完成させる</li> <li>・ 実習を通して、心身に与える影響を述べるができる</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
予習: 実習種目に関して使用される材料、道具、手順、リスク管理などをあらかじめ把握しておく 復習: 理解できたこと、できなかったことを整理し、理解できなかったことは質問すること				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 切り絵	流れの説明 作業活動実践		
2	切り絵	作業活動実践 包括的作業活動分析		
3	紙粘土	作業活動実践 包括的作業活動分析		
4	リリアン 1	作業活動実践		
5	リリアン 2	作業活動実践		
6	リリアン 3	作業活動実践		
7	リリアン 4	包括的作業活動分析		
8	アンデルセン 1	作業活動実践		
9	アンデルセン 2	作業活動実践		
10	アンデルセン 3	作業活動実践		
11	アンデルセン 4	包括的作業活動分析		
12	地域の高齢者との実践 1	OT塾での活動準備		
13	地域の高齢者との実践 2	OT塾での実践		
14	軽作業活動分析	季節ごとのカレンダー作製		
15	軽作業活動分析	季節ごとのカレンダー作製		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適時配布</li> <li>・ 作業—その治療的応用 改訂第2版 (協同医書出版)</li> </ul>		課題・レポート	100%	授業は実技形式にて作業活動を行う

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
作業治療学実習Ⅱ	作業療法学科/2年	2026/前期	実習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位(30時間)	必修		山下 良二
授業の概要			
作業活動の手順、道具の使用や管理方法など、実習を通して基本的な知識と技術を学ぶ。また分析を通して作業活動の使い方やその作業活動に必要な機能を確認し、治療手段として活用するときの指導方法を学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
実習を通して、臨床場面に応用するための考察ができるようになる。			
実務経験有無		実務経験内容	
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして分かりやすく説明する。	
時間外に必要な学修			
予習: 配布した資料を確認する。 復習: 作業ごとに作業分析と段階付け、リスク管理などをまとめてレポートとして提出する。			
回	テーマ	内容	
1	オリエンテーション、分析	前期講義の内容・レポート作成に関する説明。	
2	園芸作業 ①	園芸に対する作業分析を行う。	
3	園芸作業 ②	園芸作業の活動実践を行う。	
4	園芸作業 ③	園芸作業の活動実践を行う。	
5	木工作业 ①	鋸動作などの動作分析について考える。	
6	木工作业 ②	釘打ち動作などの動作分析について考える。	
7	革細工 ① 革細工について	革細工の作業説明、治療効果などについて説明する。 モデリング、スタンピングの説明・実施。	
8	革細工 ② コースター作成	革の裁断とデザイン転写。	
9	革細工 ③ コースター作成	コースター作成: 作品作りと作業分析を行う。	
10	陶芸活動①	陶芸の説明、計画立案を行う。	
11	陶芸活動②	陶芸作業の活動実践を行う。	
12	陶芸活動③	陶芸作業の活動実践を行う。	
13	陶芸活動④	陶芸作業の活動実践を行う。	
14	軽作業活動分析	軽作業活動と作業分析を行う。	
15	軽作業活動分析・レポート作成	作業分析とレポート作成。	
教科書・教材		評価基準	評価率
プリント配布 作業療法学全書改訂第2版 第2巻 基礎作業学(協同医書出版)		課題・レポート	100%
			その他 授業は実技形式にて作業活動を行う

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
作業治療学実習Ⅲ	作業療法学科/2年	2026/後期	実習	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位(30時間)	必修		大川 麻美	
授業の概要				
「レクリエーション」や「遊び」を作業療法的手段として捉え、その治療的意義と指導技術を学ぶ。種目の選定、ルール調整、治療的自己利用を体験的に習得する				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身機能に基づいた作業分析と適応ができる</li> <li>・集団力働の活用ができる</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして作業分析について指導する		
時間外に必要な学修				
予習:対象疾患に対する評価指標を確認し、実習のシミュレーションを行う 復習:作業ごとに作業分析と段階付け、リスク管理などをまとめる				
回	テーマ	内容		
1	レクリエーション	即時作業分析 レクリエーション計画立案		
2	レクリエーション	レクリエーション計画準備		
3	レクリエーション	レクリエーション実施		
4	レクリエーション	振り返り		
5	地域の高齢者との実践 1	OT塾での活動準備		
6	地域の高齢者との実践 2	OT塾での活動準備		
7	地域の高齢者との実践 3	OT塾での実践		
8	パラスポーツを通じたコミュニケーションを考える1	パラスポーツについて		
9	パラスポーツを通じたコミュニケーションを考える2	パラスポーツの実践		
10	地域プロジェクト	放課後児童クラブの職員と、連携して「生活の場」から子どもの育ちを支援する取り組みの計画		
11	地域プロジェクト	放課後児童クラブの職員と、連携して「生活の場」から子どもの育ちを支援する取り組みの準備		
12	地域プロジェクト	放課後児童クラブの職員と、連携して「生活の場」から子どもの育ちを支援する取り組みの準備		
13	地域プロジェクト	放課後児童クラブの職員と、連携して「生活の場」から子どもの育ちを支援する取り組みの実施		
14	発表および報告	放課後児童クラブの体験を通して、気づきや学び感じたこと(意味乗る作業)をプレゼンテーション		
15	意味のあるアクティビティ	事例検討		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適時配布 作業療法学全書改訂第2版 第2巻 基礎作業学(協同医書出版)		課題・レポート	100%	授業は実技形式にて作業活動を行う

# 作業療法評価学

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法評価学概論	作業療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		山下 良二
授 業 の 概 要			
作業療法の中で行われる評価の目的や、流れの中で評価の位置づけを理解する。評価の手段である面接、観察と意識障害やバイタル測定の評価の概要を理解する。また、関節可動域測定 of 概念や目的を理解し、測定の実技を習得する。			
授業終了時の到達目標			
作業療法がどのような流れで行われているか理解し、作業療法評価の目的を説明できる。評価に必要な面接や観察の目的と意義を理解する。意識障害やバイタル測定、関節可動域訓練の概要を学び、正確に行える技術を習得する。			
実務経験有無		実務経験内容	
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、臨床場面に必要な評価について指導する	
時間外に必要な学修			
予習：次回の範囲のテキストや資料を読んでおく。 復習：小テストを行うため前回の復習をしておく。実技テストに向けて実技練習も取り組んでおく。			
回	テーマ	内 容	
1	作業療法における評価とは	作業療法における評価の目的と意義について説明する。	
2	作業療法評価における情報収集	評価に必要な情報収集の目的や意義、情報収集する内容を理解する。	
3	作業療法評価における面接とは	面接を行う目的と面接の実技について。	
4	作業療法評価における観察とは	観察を行う目的を理解する。 日常生活動作を観察し、問題点を考察する。	
5	意識障害の評価	意識障害の評価の目的と意義について。	
6	バイタルの評価と測定	バイタル測定を行う目的と意義。	
7	関節可動域測定 (ROM) の概要	関節可動域制限の定義と分類について。 関節可動域制限の生じるメカニズムについて。	
8	ROM測定の実技①	ROM測定における検査方法と注意点。 肩関節のROM測定実技を行う。	
9	ROM測定の実技②	肩関節・肘関節のROM測定実技。	
10	ROM測定の実技③	前腕・手関節・手指関節のROM測定実技。	
11	ROM測定の実技④	股関節・膝関節・足関節のROM測定実技。	
12	ROM測定の実技⑤	肩甲帯、体幹のROM測定実技。	
13	ROM測定の実技⑥	ROM測定のまとめ。	
14	面接の再復習	実習に向けて目的を持った面接ができるよう再復習する MTDLPの生活行為聞き取りシートを用いて面接練習を行う。	
15	観察の再復習と記録について 評価のまとめ	評価に必要な観察の再復習を行う。 評価から目標設定、治療プログラムの流れを理解する。	
教科書・教材		評価基準	評価率
標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第2版 (医学書院) 新・徒手筋力検査第10版 (協同医書出版)		期末試験 実技小テスト	80% 20%
			その他 講義内容によっては実技を行う。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
運動器作業療法評価学	作業療法学科/2年	2026/前期	実技	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必修		山下 良二	
授業の概要				
運動器の疾患に関わる評価の目的や意義を学び、正確な評価実技を習得する。特に運動器疾患に必要な作業療法評価の実技を臨床場面で活用できるように習熟する。				
授業終了時の到達目標				
各種評価法の使用目的を理解し、対象者の関わりにおいて適切に選択できる。 得られた結果と他の評価で得られた結果を統合・解釈することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、評価の目的や技術について指導する。		
時間外に必要な学修				
予習：次回の範囲のテキストや資料を読んでおく。 復習：小テストを行うため前回の復習をしておく。実技テストに向けて実技練習も取り組んでおく。				
回	テーマ	内 容		
1	筋力検査の目的とMMT①	筋力検査の概要とMMTにおける検査方法と注意点。		
2	MMT②	肩関節周囲のMMT 実技。		
3	MMT③	肘関節・前腕・手関節周囲のMMT実技。		
4	MMT④	股関節・膝関節のMMT実技。		
5	MMT⑤	足関節周囲、体幹のMMT実技。		
6	MMT⑤	MMTの再復習。		
7	感覚検査①	感覚検査 表在感覚 の評価の評価。		
8	感覚検査②	感覚検査 深部感覚 複合感覚の評価の評価。		
9	形態測定	上肢、下肢の形態測定。		
10	姿勢評価	肢位別の姿勢評価。		
11	バランス検査①	座位、立位でのバランス能力のみかた。		
12	バランス検査②	座位、立位でのバランス能力のみかた。		
13	上肢機能検査	STEF、MFTの評価。		
14	ROM測定の再復習	下肢のROMを再復習。		
15	まとめ	評価実技の再復習。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第2版 (医学書院) 新・徒手筋力検査第10版 (協同医書出版)		実技試験	100%	講義内容によっては実技を行う。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
神経筋作業療法評価学	作業療法学科/2年	2026/前期	実技
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		山下 良二
授業の概要			
中枢疾患や筋疾患に関与する評価の目的や意義を学び、正確な評価実技を習得する。また画像所見からも評価が行えるように基礎的な知識の定着を目標とする。高次脳機能障害に対する検査も学習する。			
授業終了時の到達目標			
各検査の目的・準備物・方法・記録の仕方、結果に対する解釈を説明することができ、正確な評価を行うことができる。画像からも評価が行えることを目標とする。			
実務経験有無		実務経験内容	
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、評価の目的や技術について指導する。	
時間外に必要な学修			
予習：次回の範囲のテキストや資料を読んでおく。 復習：小テストを行うため前回の復習をしておく。実技テストに向けて実技練習も取り組んでおく。			
回	テーマ	内容	
1	中枢神経疾患や筋疾患の概要を学ぶ 画像の基礎知識について	中枢疾患や筋疾患などの概要を理解する。画像所見から評価ができるよう基礎的な知識を理解する。	
2	脳画像について	脳画像から考えられる症状を読み取り、評価へとつなげていく。	
3	片麻痺の回復段階	ブルンストローム法、上田の12グレード法について。	
4	腱反射、病的反射	概要と評価の説明および実技を習得する。	
5	筋緊張検査	筋緊張のみかた 評価について学ぶ。	
6	脳神経検査	第1脳神経～第12脳神経の検査方法。	
7	小脳機能検査	四肢の運動失調、測定異常など。	
8	中枢疾患特有の評価	FMAなどの中枢疾患特有の評価について学ぶ。	
9	高次脳機能障害について（総論）	高次脳機能障害を脳解剖の視点で考える。	
10	半側空間無視	概要と評価の説明および実技を習得する。	
11	記憶障害	概要と評価の説明および実技を習得する。	
12	注意障害	概要と評価の説明および実技を習得する。	
13	遂行機能障害、失行など	概要と評価の説明および実技を習得する。	
14	認知機能に関わる評価	概要と評価の説明および実技を習得する。	
15	まとめ	各評価の復習と確認テスト。	
教科書・教材		評価基準	評価率
標準作業療法学 作業療法評価学（医学書院） 作業療法テキスト 高次脳機能障害・実習（中山書店）		期末試験	100%
			講義内容によっては実技を行う。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
作業療法評価応用学	作業療法学科/2年	2026/後期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必修		山下 良二	
授業の概要				
評価実習に向けて必要な情報収集、評価計画、目標設定、治療プログラムについての理解を深める。模擬症例を通じて評価の流れと統合と解釈について理解する。評価実習で実際に行った評価について振り返り、ケースレポートを作成する。				
授業終了時の到達目標				
評価から対象者の問題点を抽出し、目標設定と治療プログラムが立案できる。症例を通して対象者の理解を深め、評価実習Ⅱへつなげていく。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法の経験を活かして、評価や治療プログラムについて指導する。		
時間外に必要な学修				
予習：配布したプリントを確認し、復習すること。 復習：評価実習で作成したケースノートを基にケースレポートをまとめていく。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 情報収集について	情報収集のまとめ方と他部門からの情報収集。 模擬症例の情報を整理する。		
2	評価計画の立案について	評価計画の立案について。 模擬症例の評価計画を立てる。		
3	ICFの定義と分類について①	ICFの定義を理解し、分類について学習する。 模擬症例の問題点をICFに分類する。		
4	ICFの定義と分類について②	ICFの定義を理解し、分類について学習する。 模擬症例の問題点をICFに分類する。		
5	目標設定について	目標設定の考え方を学ぶ。 模擬症例の目標設定を立案する。		
6	統合と解釈について①	統合と解釈から考察の考え方を理解する。 模擬症例の考察を考える。		
7	統合と解釈について②	統合と解釈から考察の考え方を理解する。 模擬症例の考察を考える。		
8	評価実習に向けての評価実技の復習	評価実技の再復習を行う。		
9	評価実習の振り返り 評価レポート作成の流れ	評価実習で学んだことを振り返る。 評価レポートの作成の流れについて説明する。		
10	情報収集と評価計画の見直し	症例に必要な情報を整理し、足りない情報について確認する。評価計画も見直して振り返りを行う。		
11	ICFの分類について	症例の問題点をICFに分類し、否定的側面と肯定的側面について理解を深める。」		
12	目標設定について	問題点より症例に対する目標を考えていく。		
13	考察について	考察に対する考え方について再復習する。		
14	考察についてまとめる	症例に対する考察を考える。		
15	レジメの作成	ケースレポートを発表用レジメにまとめる。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		課題・レポート	100%	実習で関わった症例をまとめていく。

# 作業療法治療学

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
中枢神経疾患作業療法学 I	作業療学科/2年	2026/後期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必修		馬場 広志	
授業の概要				
脳血管疾患に対する作業療法の基本的視点を説明し、臨床像を捉えて作業療法アプローチまでの一連の過程を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
脳血管疾患によって生じる症状の原因と臨床像を把握し、作業療法評価、アプローチについて他者に説明できることを目標とする。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの病院での経験を活かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：神経解剖学、神経生理学に目を通しておく</li> <li>・復習：配付資料と教科書を照合する</li> </ul>				
回	テーマ	内 容		
1	脳血管障害とは何か 脳血管障害に対する作業療法事例	脳血管障害の分類・鑑別、原因 事例報告		
2	脳血管障害の主症状について	運動障害、感覚障害、嚥下障害、運動失調 高次脳機能障害など		
3	脳画像と主症状	主要な脳血管障害の症状とCT・MRI画像、脳の機能局在		
4	時期別の作業療法 急性期-回復期-生活期	急性期（早期リハ、リスク管理）、回復期（ADL向上、チームアプローチ、自宅復帰）、生活期（MTDLP、介護保険）		
5	脳血管障害の作業療法評価	身体機能、精神・高次脳機能、ADLの評価 Brs. stage、FMA		
6	脳血管障害の生活行為 1	ADL、IADLの特徴		
7	脳血管障害の生活行為 2	BRSごとのADL、動作分析		
8	脳血管障害の生活行為 3	BRSごとのADL、動作分析		
9	脳血管障害の生活行為 4	BRSごとのADL、動作分析		
10	脳血管障害の上肢機能に対する アプローチ	治療戦略について		
11	高次脳機能障害に対する作業療法1	注意障害、記憶障害の臨床像とアプローチ		
12	高次脳機能障害に対する作業療法2	左半側空間無視、失語症		
13	高次脳機能障害に対する作業療法3	失行症、失認の臨床像とアプローチ		
14	脳血管障害の統合と解釈	ICFやMTDLPに基づいた見方、目標設定 事例検討		
15	作業療法計画、アプローチ	目標に対する作業療法計画、アプローチについて考える 事例検討		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳卒中（医歯薬出版）</li> <li>・図解 作業療法技術ガイド（文光堂）</li> <li>・配付資料</li> </ul>		期末試験	100%	神経病学Ⅰの復習 をしておこう。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
運動器疾患作業療法学 I	作業療学科/2年	2026/後期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必修		田村 篤史	
授業の概要				
ハンドセラピーに関する知識、各疾患に対する治療法・予後管理法などについての基本的知識を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドセラピーを臨床で実践するために必要な基礎知識を理解する</li> <li>・疾患について病態像を把握し、作業療法治療に適切に結びつけることができる</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
予習：該当範囲の教科書を読んでおく。 復習：学んだ範囲の資料や教科書を復習しておく。				
回	テーマ	内容		
1	ハンドセラピー	運動器とは・ハンドセラピー概論 手の働きと知覚との関係		
2	ハンドセラピー	ハンドセラピー評価と各方法とその解釈の仕方		
3	骨折	骨折の基礎知識 人体解剖		
4	骨折	橈骨遠位端骨折について		
5	骨折	高齢者の4大骨折の理解		
6	関節症	母指CM関節症・ヘバーデン・ブシャール結節・関節症と人工関節		
7	腱鞘炎	上肢の腱鞘炎の特徴		
8	末梢神経損傷	末梢神経概論・評価		
9	末梢神経損傷	末梢神経損傷の治療		
10	絞扼性神経障害	絞扼性神経障害概論		
11	絞扼性神経障害	絞扼性神経障害の評価と治療		
12	関節リウマチ	関節リウマチの特徴		
13	関節リウマチ	関節リウマチ患者への介入		
14	実技	評価実習に向けて		
15	まとめ	テスト対策		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハ実践テクニック ハンドセラピー (メジカルビュー社)</li> <li>・作業療法技術ガイド (文光堂) ほか</li> </ul>		期末試験	100%	基礎知識重要

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
内部障害作業療法学	作業療法学科/2年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		鎌田 雄大
授業の概要			
生活習慣との関連性が高く、対象人口も多い心疾患や呼吸器疾患等に対する生活指導を含めた作業療法を学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
各内部障害の症状や生活習慣との関連性について説明できる。 対象者の生活機能やQOL向上を目指した作業療法のプログラムの立案ができる。			
実務経験有無		実務経験内容	
有		臨床経験を講義に活かすと共に、現役作業療法士の経験や体験談を踏まえて分かりやすく説明する。	
時間外に必要な学修			
内部障害に関わる解剖学、生理学、内科学、当科目の予習と振り返りを行う。			
回	テーマ	内容	
1	授業概要の説明 内部作業量療法総論	授業内容の説明、アイスブレイク、内部障害の定義、作業療法の役割	
2	呼吸 1	呼吸器系の解剖、生理、病態、呼吸不全の定義と基準など	
3	呼吸 2	呼吸リハビリテーションにおける評価の目的、評価の進め方と項目 など	
4	呼吸 3	呼吸リハビリテーションの概要、コンディショニング運動療法、ADLトレーニング など	
5	呼吸 4	作業療法 OTが関わる意義、OT評価の流れ など	
6	呼吸 5	酸素療法、人工呼吸療法、薬物療法 など	
7	呼吸 6	吸引 吸引のための基礎知識、吸引の実際 吸引実技 など	
8	循環 1	バイタルサインとBLS/AEDについて <b>BLS・AED実技</b>	
9	循環 2	虚血性心疾患の病態、心電図について	
10	循環 3	心臓リハビリテーションの概要、歴史、時期区分、効果など	
11	循環 4	心臓リハビリテーションにおけるリスク層別化 リスクマネジメント、フィジカルアセスメント など	
12	代謝 1	栄養管理と血糖コントロールについて	
13	代謝 2	糖尿病合併症 急性合併症、慢性合併症、糖尿病患者への作業療法	
14	内部作業療法の実際①	呼吸器疾患 COPD、間質性肺炎、誤嚥性肺炎等の患者への作業療法	
15	内部作業療法の実際②	循環・代謝疾患 心不全、糖尿病に伴う下肢動脈閉塞症患者への作業療法	
教科書・教材		評価基準	評価率
作業療法テキスト 内部障害作業療法学 呼吸・循環・代謝 (15レクチャー) (中山書院)		期末試験 (筆記試験) BLS・AED/吸引 (実技)	80% 20% (5・5/10)
			その他
			解剖学、生理学、 内科学の教科書で 事前学習に努める

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
発達障害作業療法学 I	作業療学科/2年	2026/後期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位(30時間)	必修		石井 晶子	
授業の概要				
<p>発達障害の各疾患を身体的・社会的・発達の側面から捉え、問題点を評価し、治療計画及び治療手段を学習する。</p> <p>臨床場面での症例や事例を多く紹介し、こどもたちがこどもらしく生きていくための根拠ある計画や解釈・アプローチができる。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害の作業療法の役割を解説できる。</li> <li>発達障害児の評価の基本である、観察の方法、各種の検査を紹介し、実施方法の概念を学ぶ。</li> <li>以下にあげる疾患の臨床像を捉え、評価及びアプローチを理解できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を活かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> <li>予習: 事前に教科書に目を通しておく</li> <li>復習: 配布資料を基に振り返りを行う</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	発達障害(狭義)の総論	自閉スペクトラム症、注意欠陥/多動症、学習症、発達性協調運動症の概要		
2	小児リハビリテーションと支援制度	乳幼児期から青年期までの発達段階に応じた支援制度		
3	自閉スペクトラム症 (ASD) 1	自閉スペクトラム症の特徴と作業療法		
4	自閉スペクトラム症 (ASD) 2	自閉スペクトラム症に対する評価・プログラム		
5	注意欠陥/多動症 (AD/HD) 1	注意欠陥/多動症 (AD/HD) の特徴と作業療法		
6	注意欠陥/多動症 (AD/HD) 2	注意欠陥/多動症 (AD/HD) に対する評価・プログラム		
7	学習症 (LD)	学習障害 (LD) の特徴と作業療法		
8	発達性協調運動症 (DCD)	発達性協調運動症 (DCD) の特徴と作業療法		
9	知的障害	知的障害の特徴と作業療法評価・プログラム		
10	ダウン症	ダウン症の特徴と作業療法評価・プログラム		
11	感覚統合療法 1	感覚統合療法とは 感覚統合療法の体験		
12	感覚統合療法 2	感覚統合療法の実践		
13	発達障害のアプローチ 1	ASD、AD/HD、LD、DCDのアプローチの実践 1		
14	発達障害のアプローチ 2	ASD、AD/HD、LD、DCDのアプローチの実践 2 障害児の保護者への子育て支援		
15	まとめ	各疾患ごとのまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>イラストでわかる発達障害の作業療法 (医歯薬出版株式会社)</li> <li>配布資料・作業療法ジャーナル</li> </ul>		期末試験	100.0%	事前学習に努める

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
精神障害作業療法学概論	作業療法学科/2年	2026/前期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位(30時間)	必修		前田 悠志	
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>精神障害のリハビリテーションの流れを理解する。</li> <li>精神障害作業療法の構造と形態を学び、作業療法の目的と役割を理解する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>精神保健領域において作業療法の目的と手段、方法を説明できる。</li> <li>精神保健領域において各職種の役割を理解し協業する方法を述べる事ができる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
予習: 該当範囲の教科書を読んでおく。				
復習: 学んだ範囲の資料や教科書を復習しておく。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 精神科医療状況概論	授業概要の説明、精神障害作業療法の概要		
2	精神科医療状況概論	精神科医療を取り巻く状況、携わる他職種の理解		
3	精神科領域での基礎理論 1	わが国の精神科医療と精神障害作業療法の歴史		
4	精神科領域での基礎理論 2	障害論( I C F )、精神障害リハビリテーションの理解		
5	精神科領域での基礎理論 3	精神障害作業療法での生活行為とは		
6	精神科領域での基礎理論 4	ライフサイクルや発達段階からの障害を捉える		
7	精神科領域での基礎理論 5	精神疾患とその症状、身体図式		
8	精神障害作業療法の基礎 1	精神障害作業療法の目的		
9	精神障害作業療法の基礎 2	精神障害作業療法で用いる作業活動(構成的作業)		
10	精神障害作業療法の基礎 3	精神障害作業療法で用いる作業活動(投影的作業)		
11	精神障害作業療法の基礎 4	精神障害作業療法で用いる集団(集団の種類やかたち等)		
12	精神障害作業療法の基礎 5	精神障害作業療法で用いる集団(個人と集団の関係、集団の成熟等)		
13	精神障害作業療法の役割(医療)	精神科領域の作業療法士が活躍するフィールド(精神科作業療法、外来作業療法等)		
14	精神障害作業療法の役割(介護・障害福祉)	精神科領域の作業療法士が活躍するフィールド(訪問、就労支援等)		
15	精神障害作業療法概論のまとめ	講義の振り返り、学生からの質問への回答		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
精神障害と作業療法 新版 (三輪書店)		期末試験	100%	

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
精神障害作業療法学 I	作業療法学科/2年	2026/後期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必修		小松 博彦/福家 亜希子	
授業の概要				
各精神疾患の作業療法について、その対応・治療について学び、臨床への応用の学びを深める。				
授業終了時の到達目標				
各精神障害に対する作業療法の治療・援助法について具体例を挙げて他者に説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かして分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
予習: 該当範囲の教科書を読んでおく。 復習: 学んだ範囲の資料や教科書を復習しておく。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 精神科作業療法の進め方	授業概要の説明 精神科作業療法の基礎、対象者の理解		
2	精神科作業療法の進め方	精神科作業療法の治療構造		
3	精神科作業療法評価概論	精神科作業療法評価の概要		
4	精神科作業療法評価概論	精神科作業療法評価の流れと計画		
5	精神科作業療法評価各論	各種評価法の説明		
6	精神科作業療法評価各論	各種評価法の説明		
7	精神科作業療法評価面接	半構成的面接を用いての説明と演習		
8	精神科作業療法評価面接	半構成的面接を用いての説明と演習		
9	精神科作業療法計画立案	作業療法計画立案についての概要		
10	精神科作業療法計画立案	MTDLPを用いた支援計画の理解		
11	疾患別作業療法評価計画支援	統合失調症と作業療法		
12	疾患別作業療法評価計画支援	気分障害/神経症圏/摂食障害と作業療法		
13	疾患別作業療法評価計画支援	物質関連障害/パーソナリティ障害/神経認知障害と作業療法		
14	地域生活支援と作業療法	地域生活支援に対する評価と計画 チーム医療		
15	精神障害作業療法 I のまとめ	本講義のまとめと精神保健福祉トピックスの説明		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
精神障害と作業療法 新版 (三輪書店)		期末試験	100%	

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援学	作業療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		谷渕 加奈子
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活行為に関係する人-作業-環境の理解を深める</li> <li>生活行為に求められる評価を評価学と関連付けて学んでいく</li> </ul>			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活行為における動きの特徴やバリエーションを理解する</li> <li>生活行為における対象者を観察する視点を理解する</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験。 これまでの作業療法経験を活かし、生活行為に求められる要素について基本的な考え方を身につけられるよう指導する。		
時間外に必要な学修			
予習: 該当範囲の教科書を読んでおく。 復習: 教科書と資料を使って、学んだ範囲の振り返り。自身の生活行為に注目し関連付ける。			
回	テーマ	内容	
1	生活行為について	ADLの分類・概念	
2	ADLを構成する基本動作 1	姿勢(臥位・座位・立位)と環境、観察の視点	
3	ADLを構成する基本動作 2	寝返り～起き上がりと環境、観察の視点	
4	ADLを構成する基本動作 3	起立・着座と環境	
5	ADL 1	食事の工程と観察	
6	ADL 2	整容の工程と観察	
7	ADL 3	更衣の工程と観察	
8	ADL 4	排泄の工程と観察	課題①
9	ADL 5	入浴の工程と観察	課題②
10	IADL 1	IADLとは 洗濯、掃除、整理整頓 課題③	
11	IADL 2	調理、買い物	
12	IADL 3	経済管理、外出	
13	余暇活動	余暇活動に関連する作業、評価 QOLとは	
14	睡眠と生活習慣	睡眠 生活習慣の特徴、評価、作業バランス	
15	各領域におけるADL	身障、精神、発達、高齢期領域におけるADL まとめと試験について	
教科書・教材		評価基準	評価率
作業療法学ゴールドマスターテキストADL (メジカルビュー)、他		期末試験  課題	85%  15%
			その他
			課題の提出期限を守らなかった場合は、評価対象外とする。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援学演習	作業療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		谷渕 加奈子
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活行為の視点に基づいて対象者を観察し、適切に記録できる。</li> <li>評価法の目的および方法を理解し、実習場面で活用できる。</li> </ul>			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援学で学んだ視点に基づき、対象者を観察し考察できる。</li> <li>各種評価法の特徴を理解し、目的に応じて活用できる。</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験。 これまでの作業療法経験を活かし、生活行為に求められる要素について基本的な考え方を身につけられるよう指導する。		
時間外に必要な学修			
予習: 該当範囲の教科書を読んでおく。 復習: 教科書と資料を使って、学んだ範囲の振り返り。課題実施。			
回	テーマ	内容	
1	ADLの観察1	食事の観察・記録	
2	ADLの観察2	整容の観察・記録	
3	ADLの観察3	更衣の観察・記録	
4	ADLの観察4	排泄の観察・記録	
5	ADLの観察5	入浴の観察・記録	
6	ADL評価法1	BIとFIM	
7	ADL評価法2	BIとFIM、FAI	
8	IADLの観察・評価1	調理活動計画	
9	IADLの観察・評価2	片麻痺を想定した調理活動実施・評価	
10	ADL評価～プログラム立案の流れ1	ADLに焦点を当てた、作業療法の流れ	
11	ADL評価～プログラム立案の流れ2	ADLに焦点を当てた、作業療法の流れ	
12	ADLを構成する基本動作の観察1	姿勢の観察・記録	
13	ADLを構成する基本動作の観察2	寝返り～起き上がりの観察・記録	
14	ADLを構成する基本動作の観察3	起立・着座の観察・記録	
15	介助法	動作支援の基本と方法	
教科書・教材		評価基準	評価率
作業療法学ゴールドマスターテキストADL (メジカルビュー)、COPM・AMPSスターティングガイド (医学書院)		期末試験 課題	90% 10%
		その他 課題の提出期限を守らなかった場合は、評価対象外とする。	

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
義肢学	作業療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		大川 麻美
授業の概要			
切断者の身体・心理的特性を理解し、義肢の構造、断端管理、装着訓練、および日常生活への適応支援に関する専門知識と技術を習得する。 本人と家族が安心・安全な生活を送るための作業療法の実践力を養う。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・切断についての基本的知識、治療方法、作業療法について理解する</li> <li>・義肢における作業療法の役割について理解する</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修			
予習:配布資料や参考書を用いて用語の確認 復習:特徴や重要ポイントについて要点を整理する			
回	テーマ	内容	
1	切断	切断者の現状 切断部位の選択 切断原因疾患を知り予後を学ぶ	
2	切断	切断術 疼痛の特徴と評価	
3	切断	切断者のリハビリテーション 断端訓練と日常生活指導	
4	下肢切断	下肢切断の現状と療法	
5	義足	臨床場面でよくみる義足の種類 アライメントなど必要な知識の学習	
6	義足	臨床場面でよくみる義足の種類 アライメントなど必要な知識の学習	
7	義手総論	義手の支給制度 義手の構造・部品	
8	前腕義手	前腕義手の特徴	
9	前腕義手	チェックアウト 事例紹介	
10	上腕義手	上腕義手の特徴 チェックアウト	
11	上腕義手	事例紹介 肩・肘・手義手の特徴	
12	義手訓練	義手装着訓練	
13	電動義手	筋電義手の特徴と訓練	
14	電動義手	筋電義手の訓練方法	
15	まとめ	OTに必要な義手知識	
教科書・教材		評価基準	評価率
<ul style="list-style-type: none"> <li>・義肢学 (医歯薬出版株式会社)</li> <li>・義肢装具のチェックポイント (医学書院) ほか</li> </ul>		期末試験	100%
			その他 毎時間の復習を大切に

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
動作分析学	作業療法学科/2年	2026/後期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必修		谷渕 加奈子	
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活行為場面に関連した動作を、身体機能面の理解を基盤としつつ作業遂行の質にも着目し、多面的に動作を捉える視点を養う。</li> <li>AMPSやESIの概念を活用しながら、分析結果を課題の焦点化、目標設定およびプログラム立案へとつなげる力を育成する。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>身体機能面および作業遂行の質の両側面から分析できる。</li> <li>作業遂行能力の視点で考察できる。</li> <li>分析結果をふまえて、根拠に基づいた目標設定およびプログラム立案ができる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験。 これまでの作業療法経験を活かし、生活行為に求められる要素について基本的な考え方を身につけられるよう指導する。		
時間外に必要な学修				
予習: AMPS・ESIの項目を理解しておく 復習: 学んだ範囲の振り返り、動作分析課題の実施、確認				
回	テーマ	内容		
1	動作分析の視点を学ぶ	・機能面と作業遂行		
2	片麻痺者の動作の見方	<ul style="list-style-type: none"> <li>麻痺側と非麻痺側の使い方</li> <li>代償と作業遂行の視点</li> </ul>		
3	起居・起立着座の分析	片麻痺者の動作のポイントを確認・分析		
4	歩行	歩行(復習)、歩行と環境要因、安全性の視点		
5	高齢者の動作	<ul style="list-style-type: none"> <li>加齢による変化(復習)</li> <li>基本動作～生活行為の観察ポイント</li> </ul>		
6	作業遂行の質の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>努力量・効率性・安全性・自立性</li> <li>AMPS(運動技能・処理技能)</li> </ul>		
7	生活行為 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボトムアップとトップダウンの分析</li> <li>動画視聴</li> </ul>		
8	生活行為 2	・ワーク実施 1		
9	生活行為 3	・振り返り・発表		
10	生活行為 4	・ワーク実施 2		
11	生活行為 5	・振り返り・発表		
12	コミュニケーションと交流技能	・ESI		
13	子どもの遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの観察の視点</li> <li>感覚統合と遊び</li> </ul>		
14	統合と解釈	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICF</li> <li>課題の分析</li> </ul>		
15	目標設定	・目標・プログラム設定		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
COPM・AMPSスターティングガイド(医学書院)、他配布資料		課題	100%	課題の提出期限を守らなかった場合は、評価対象外とする。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法総合論	作業療法学科/3年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (60時間)	必修		大川 麻美/廣永 大祐
授業の概要			
国家試験に合格するための総合的な科目の復習			
授業終了時の到達目標			
国家試験に出題される全ての分野を理解し、国家試験に合格する			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修			
毎回の授業内容を振り返り、理解が不十分な箇所について主体的に学修を深めるとともに、疑問点は自ら積極的に質問すること。			
回	テーマ	内 容	
1	国家試験対策 (基礎医学)	解剖生理学 (循環器系①動脈②静脈)	
2	国家試験対策 (基礎医学)	解剖生理学 (循環器系③リンパ系④心臓)	
3	国家試験対策 (基礎医学)	解剖生理学 (循環器系⑤循環の生理学)	
4	国家試験対策 (基礎医学)	解剖生理学 (循環器系⑥心臓の刺激伝達系・心電図⑦血液、免疫)	
5	国家試験対策 (基礎医学)	解剖生理学 (消化系①消化酵素②口腔、摂食嚥下)	
6	国家試験対策 (基礎医学)	解剖生理学 (消化系③胃の構造と生理機能)	
7	国家試験対策 (基礎医学)	解剖生理学 (消化系⑤小腸・大腸の構造と生理機能⑥排便機構)	
8	国家試験対策 (基礎医学)	解剖生理学 (消化系⑦肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能)	
9	国家試験対策 (基礎医学)	解剖生理学 (泌尿器系①泌尿器の構造)	
10	国家試験対策 (基礎医学)	解剖生理学 (泌尿器系②腎臓の構造と機能③排尿機構)	
11	国家試験対策 (基礎医学)	解剖生理学 (生殖器系①生殖器の構造と機能)	
12	国家試験対策 (基礎医学)	解剖生理学 (呼吸器系①呼吸器の構造②肺機能検査と肺気量)	
13	国家試験対策 (基礎医学)	解剖生理学 (呼吸器系③呼吸生理と呼吸循環調節系④酸素解離と酸塩基平衡)	
14	国家試験対策 (基礎医学)	解剖生理学 (代謝①基礎代謝と代謝当量②エネルギー代謝)	

回	テーマ	内 容		
15	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（代謝③糖質代謝、体温調節）		
16	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（内分泌系①ホルモン②分泌器官）		
17	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（発生と組織①細胞の構造と染色体および細胞膜電位②発生）		
18	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（中枢神経系①中枢神経②大脳皮質の機能局在）		
19	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（中枢神経系③大脳基底核④大脳辺縁系⑤脳波）		
20	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（中枢神経系⑥脳幹⑦小脳）		
21	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（中枢神経系⑧脊髄⑨脳室⑩伝導路）		
22	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（末梢神経系①神経線維②脳神経）		
23	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（末梢神経系③反射④自律神経）		
24	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（末梢神経系⑤体性神経⑥神経筋接合部）		
25	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（末梢神経系⑦腕神経叢、要神経叢）		
26	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（骨格筋①構造②筋線維の特徴）		
27	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（骨格筋③運動単位④筋収縮⑤筋紡錘）		
28	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（感覚①体性感覚②視覚器③聴覚器）		
29	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（体表解剖）		
30	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（まとめとテストについて）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT/OT国家試験必修ポイント専門基礎分野 基礎医学 臨床医学 OT学 OT治療学（医 歯薬出版）		期末試験	100%	分からないことは 質問し理解を深 め、国家試験合格 を目指すこと

# 地域作業療法学

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
地域共生学 I	作業療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		大川 麻美
授業の概要			
自分の住む街に関心を寄せ、そこにある社会資源やコミュニティの役割を学ぶ。 実際に地域へ出向き、住民の方々と触れ合う体験を通して、暮らしの課題や街の魅力を発見する。			
授業終了時の到達目標			
・地域の人々の暮らしに触れ、作業療法士として自分に何が出来るかを想像できるようになる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 地域で実践した臨床経験を活かし、授業を実施する		
時間外に必要な学修			
予習: 観察と関心のスイッチを入れる 復習: 体験を作業療法のみで整理する			
回	テーマ	内容	
1	地域コミュニティの概要	地域共生とは コミュニティセンターの役割	
2	自分の地域を知る 1	自分が居住している地域の公園や施設を調べる	
3	自分の地域を知る 2	自分が居住している地域のコミュニティについて調べる (どんな集まりがあるか探す)	
4	自分の地域を知る 3	発表	
5	街歩きワーク 1	学校周辺のフィールドワーク	
6	街歩きワーク 2	学校周辺のフィールドワーク	
7	街歩きワーク 3	課題と改善のためのアイデアを発表	
8	地域高齢者との交流 1	地域の高齢者に関わる	
9	地域高齢者との交流 2	OT塾の企画	
10	地域高齢者との交流 3	OT塾の準備	
11	地域高齢者との交流 4	実演	
12	実演の振り返り	自身の関わりを分析し、OTとして何ができたかを議論	
13	地域課題について考える 1	これからの街を想像する(あったらいい企画)	
14	地域課題について考える 2	プレゼンテーション	
15	まとめ	未来の自分への手紙「地域で愛されるOTになるために」	
教科書・教材		評価基準	評価率
配布資料		レポート 発表	50% 50%
			その他 課題提出期限の遅れ は採点の対象となら ない

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
地域共生学Ⅱ	作業療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		谷渕 加奈子
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域共生学Ⅰの学びを基盤に、地域活動や防災実践へ主体的に参画する科目である。</li> <li>・地域居場所事業・サロン・学童保育等との連携を通して地域課題を体験的に理解する。</li> <li>・作業療法の視点から課題を探究し、具体的な提言へとつなげる力を養う。</li> </ul>			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動を通して地域課題を整理し、説明できる。</li> <li>・生活行為・参加・環境の視点から作業療法士の役割を考察できる。</li> <li>・地域共生社会の実現に向けた具体的な提言をまとめ、発表できる。</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 地域で実践した臨床経験を活かし、授業を実施する		
時間外に必要な学修			
予習：課題の実施にむけた準備 復習：制度の理解、地域課題のリサーチ			
回	テーマ	内容	
1	地域とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域共生学Ⅰの振り返り</li> <li>・OTと地域支援</li> </ul>	
2	実践事例から学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の居場所事業の取り組みとOTの視点</li> <li>・感想レポート</li> </ul>	
3	地域高齢者との交流 1	準備	
4	地域高齢者との交流 2	実施 (OT塾) <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りレポート</li> </ul>	
5	地域防災 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害と災害対策について</li> <li>・災害弱者に対する支援</li> </ul>	
6	地域防災 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院・施設における災害対策</li> <li>・作業療法協会・県士会による災害支援</li> </ul>	
7	地域防災 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災の実践 (太田南コミセン)</li> </ul>	
8	地域防災 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールを用いた避難所空間作成と課題検討</li> <li>・災害時調理</li> </ul>	
9	地域防災 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の抽出</li> <li>・まとめレポート</li> </ul>	
10	地域高齢者との交流 1	準備	
11	地域高齢者との交流 2	実施 (ゴンタくんサロン・7月) <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りレポート</li> </ul>	
12	地域活動 1	地域活動を通して、OTの視点から課題の抽出・対応策を考える。	
13	地域活動 2	地域活動を通して、OTの視点から課題の抽出・対応策を考える。	
14	地域活動 3	まとめ作業	
15	発表	発表、振り返り ・レポート提出	
教科書・教材		評価基準	評価率
配布資料		レポート	100%
			その他 課題の提出期限を守らなかった場合は、評価対象外とする。

# 臨床実習

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
見学実習	作業療法学科/1年	2026/後期	外部実習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位(45時間)	必修		馬場 広志
<b>実習の概要</b>			
学校が連携している臨床経験5年以上の作業療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。			
<b>実習終了時の到達目標</b>			
職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。			
<b>実務経験有無</b>		<b>実務経験内容</b>	
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。	
<b>時間外に必要な学修</b>			
実習の手引きを熟読し、実習の目的、各自の目標を明確にして臨み、毎日の課題と予習を行うこと。			
<b>実習内容</b>			
第1学年後期に行われる臨床場面での実習であり、将来学生が作業療法士になる上でその資質・適性の有無を判断する機会を持つために、作業療法業務の部分的体験および見学を行うものである。可能な限りMTDLPのシートなどを活用しながら面接などを体験する。			
1. 実習学生としての役割と責任			
1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 施設の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の業務内容を見学する。 施設の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで対象者への問診や検査測定など作業療法士の業務体験を行う。			
2) 実習施設における態度、行動については、「実習にあたっての心得」を参照し、各施設の規則を遵守する。			
3) 「デイリーノート」を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。			
4) 可能な限りMTDLPの「生活行為聞き取りシート」などを使用して対象様と面接を行う。			
5) 各施設での実習終了後、学校で行われるセミナーに出席し、各自の実習施設について必要な報告発表を行う。			
<b>教科書・教材</b>		<b>評価基準</b>	<b>評価率</b>
・実習の手引き ・学生の心得 ・配布資料		実習成績表の判定：実習・実習前オリエンテーション・実習報告会の出席状況と学習成果状況により総合判定	100%
			<b>その他</b>
			実習の手引きを熟読し、実習生として相応しい態度で臨むこと

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
評価実習 I	作業療法学科/2年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
4単位 (180時間)	必修		谷 淵 加奈子
実 習 の 概 要			
<p>学校が連携している臨床経験5年以上の作業療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。</p>			
実習終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業人としての常識ある態度と責任感を身につけ、自己管理のもと主体的・意欲的に実習へ取り組む。</li> <li>・実習指導者の指導のもと、評価計画を理解し、情報収集から評価の整理・目標設定までを実践できる。</li> </ul>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	<p>作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。</p>		
時間外に必要な学修			
<p>実習の手引きを熟読し、実習の目的、各自の目標を明確にして臨み、毎日の課題と予習・復習を行う。</p>			
実習内容			
<p>第2学年後期に行われる臨床場面での実習であり、対象者の心身諸機能・生活行為を把握する評価の実施及び作業療法士の役割を、実習指導者の指導のもと部分的に実践する実習である。 評価目的の把握や各検査項目の確実な実施、ICFを用いた評価結果の統合と解釈、目標設定までを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。</li> <li>2) 実習施設における態度、行動については、『実習に対する学生心得』を参照し、各施設の規則を遵守する。</li> <li>3) 『デイリーノート』を作成し、実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。</li> <li>4) 『ケースノート』を作成し、実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。</li> <li>5) 評価実習 I では実習指導者と相談しながら、ICFのシートにまとめていく。</li> <li>6) 実習終了時、『評価実習成績報告書』の学生の意見を記入し、実習指導者と話し合う。</li> <li>7) 各施設で実習終了後、学校でケースレポートを作成し、各自の実習経験と併せて報告会で発表を行う。</li> </ol>			
教科書・教材		評価基準	評価率
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の手引き</li> <li>・学生の心得</li> <li>・配布資料</li> </ul>		<p>実習成績表の判定：実習・実習前オリエンテーション・実習報告会の出席状況と学習成果状況により総合判定</p>	100%
			その他
			<p>実習の手引きを熟読し、実習生として相応しい態度で臨むこと</p>

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
総合臨床実習 I	作業療法学科/3年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
10単位 (450時間)	必修		廣永 大祐
授業の概要			
学校が連携している臨床経験5年目以上の作業療法士（臨床実習指導者）が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。			
実習終了時の到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職業人としての常識的態度を身に付ける。</li> <li>2. 作業療法評価計画を理解することが出来る。</li> <li>3. 評価結果を整理し全体像を把握することが出来る。</li> <li>4. 治療環境を設定し、治療プログラムを遂行することが出来る。</li> <li>5. 管理・運営について理解することが出来る。</li> <li>6. 記録・報告をすることができる。</li> </ol>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修			
自己学習とデイリーノートのみまとめ ケースノートの記載			
実習内容			
<p>総合臨床実習 I は、第3学年に行われる臨床場面での実習であり、当校で学習した知識と技術・技能および態度を臨床における作業療法体験により統合する課程である。</p> <p>学生は臨床実習指導者の指導のもとに、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などをMTDLPなどの活用を通して、作業療法士としての知識と技術・技能および態度を身に付け、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高めるものである。</p>			
実習学生としての役割と責任			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 作業療法部門の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の診療補助体験や、対象者への問診、検査測定等の評価を行う。また、評価結果統合と解釈（考察）を行い、目標の設定と治療プログラムを立案し作業療法の成果を確認する。必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。</li> <li>2) 実習施設における態度、行動については、『実習にあたっての心得』を参照し、各施設の規則を遵守する。</li> <li>3) 『デイリーノート』及び『ケースノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。また可能な限りMTDLPの各シートを使用してケースの情報をまとめていく。</li> <li>4) 実習終了時『臨床実習成績報告書』の中の学生意見を記入し、臨床実習指導者と話し合う。</li> <li>5) 各施設での実習終了後、学校で症例報告シートを作成し、各自の実習経験と併せてセミナーにて報告発表を行なう。</li> </ol>			
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の手引き</li> <li>・学生の心得</li> <li>・配布資料</li> </ul>	実習成績表の判定：実習・実習前オリエンテーション・実習報告会の出席状況と学習成果状況により総合判定	100%	実習前後に客観的臨床能力試験を行う。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
総合臨床実習Ⅱ	作業療法学科/3年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
10単位 (450時間)	必修		廣永 大祐
授業の概要			
学校が連携している臨床経験5年目以上の作業療法士（臨床実習指導者）が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。			
実習終了時の到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職業人としての常識的態度を身に付ける。</li> <li>2. 作業療法評価計画を理解することが出来る。</li> <li>3. 評価結果を整理し全体像を把握することが出来る。</li> <li>4. 治療環境を設定し、治療プログラムを遂行することが出来る。</li> <li>5. 管理・運営について理解することが出来る。</li> <li>6. 記録・報告をすることができる。</li> <li>7. 他部門連携や施設の特徴について理解できる。</li> </ol>			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修			
自己学習とデイリーノートのとまとめ ケースノートの記載			
実習内容			
<p>総合臨床実習Ⅱは、第3学年に行われる臨床場面での実習であり、当校で学習した知識と技術・技能および態度を臨床における作業療法体験により統合する課程である。</p> <p>学生は臨床実習指導者の指導のもとに、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などをMTDLPなどの活用を通して、作業療法士としての知識と技術・技能および態度を身に付け、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高めるものである。</p>			
実習学生としての役割と責任			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 作業療法部門の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の診療補助体験や、対象者への問診、検査測定等の評価を行う。また、評価結果統合と解釈（考察）を行い、目標の設定と治療プログラムを立案し作業療法の成果を確認する。必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。</li> <li>2) 実習施設における態度、行動については、『実習にあたっての心得』を参照し、各施設の規則を遵守する。</li> <li>3) 『デイリーノート』及び『ケースノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。また可能な限りMTDLPの各シートを使用してケースの情報をまとめていく。</li> <li>4) 実習終了時『臨床実習成績報告書』の中の学生意見を記入し、臨床実習指導者と話し合う。</li> <li>5) 各施設での実習終了後、学校で症例報告シートを作成し、各自の実習経験と併せてセミナーにて報告発表を行なう。</li> </ol>			
教科書・教材		評価基準	評価率
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の手引き</li> <li>・学生の心得</li> <li>・配布資料</li> </ul>		実習成績表の判定：実習・実習前オリエンテーション・実習報告会の出席状況と学習成果状況により総合判定	100%
			その他
			実習前後に客観的臨床能力試験を行う。

専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ  
作業療法学科

令和8年度

授 業 概 要

2026年4月 発行

発 行 者 専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ  
〒761-8056 香川県高松市上天神町722-1  
TEL:087-815-3300 FAX:087-815-2111  
URL:<http://www.anabuki-college.net/ark/>